

紀の川市 公共施設マネジメント計画
施設分析・評価編



平成 28 年 3 月

紀 の 川 市

紀の川市 公共施設マネジメント計画
施設分析・評価編

目 次

I	分析・評価の方法	1
1	分析・評価の考え方及び対象とする施設	1
1-1	施設分析・評価の考え方	1
1-2	対象とする施設	2
2	分析・評価の方法	3
II	個別施設の分析・評価	8
1	官公署	8
1-1	庁舎等	8
2	市民文化・社会教育施設	11
2-1	集会施設	11
2-2	文化施設	18
2-3	図書館	24
2-4	社会教育施設	29
3	学校教育施設	38
3-1	小学校	38
3-2	中学校	46
3-3	その他教育施設	52
4	子育て支援施設	58
4-1	保育所	58
4-2	学童保育施設	65
4-3	児童館	72
5	保健福祉・医療施設	77
5-1	保健施設	77
5-2	福祉施設	82
5-3	診療所	87
6	スポーツレクリエーション施設	91
6-1	スポーツ施設	91
6-2	レクリエーション施設	97
7	産業施設	101
7-1	産業施設	101
8	公営住宅	110
8-1	公営住宅	110
9	その他施設	119
9-1	供給処理施設	119
9-2	斎場・墓苑	121
9-3	消防・防災施設	123
	施設評価結果のまとめ	125

I 分析・評価の方法

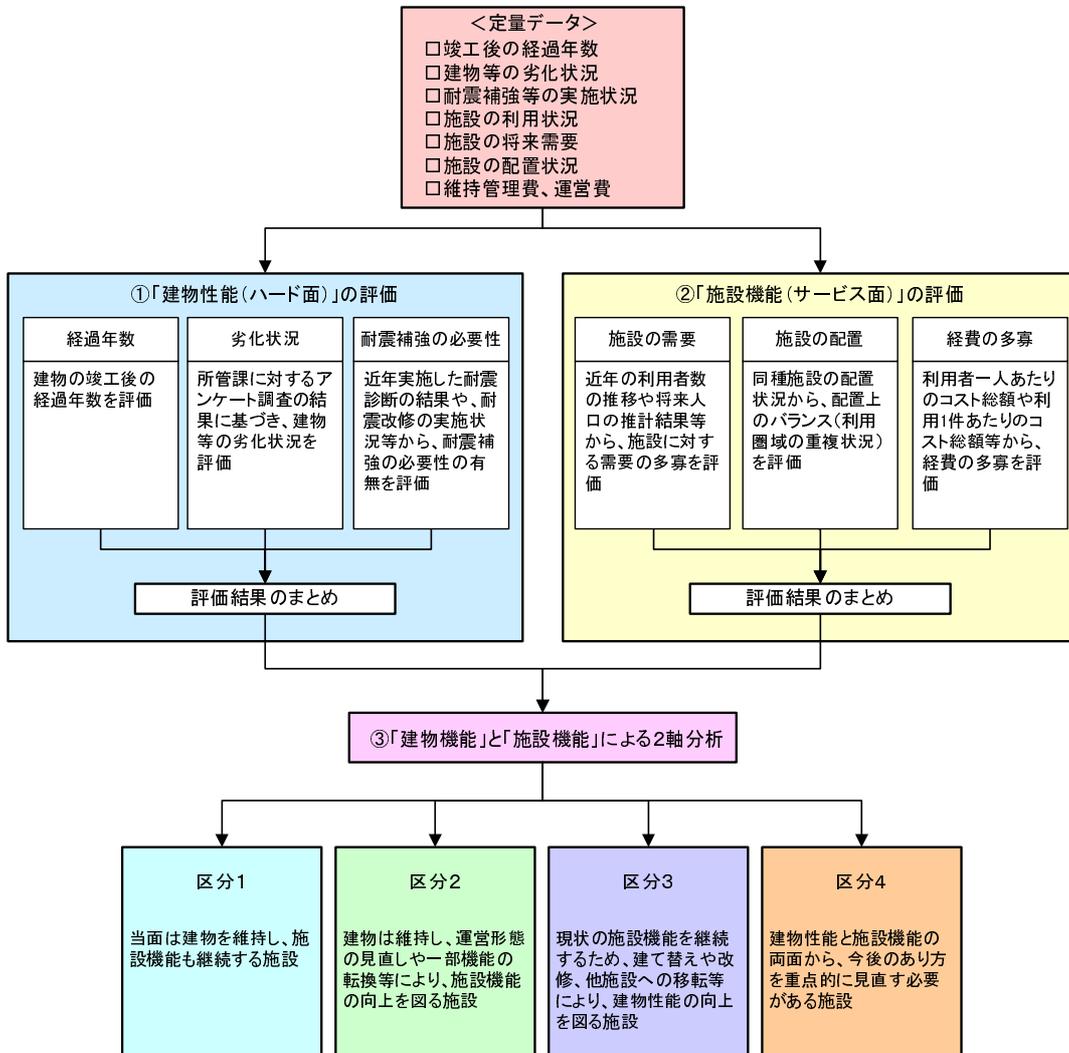
1 分析・評価の考え方及び対象とする施設

1-1 施設分析・評価の考え方

実際にマネジメント方策を実行に移すには、個々の施設の受益者である市民をはじめとする関係者と意見交換や討議を重ね、1人でも多くの関係者の理解、賛同を得るための方策を導き出す必要があります。このため、個々の施設の基本的な方向性（案）を整理し、財政上の制約や市民生活に及ぼす影響など、様々な観点から方向性（案）の実効性の検証を進めていく必要があります。

このため、本編では次に示すような定量データを用いて、「①建物性能（ハード面）」と「②施設機能（サービス面）」の二面から、個々の施設を客観的かつ相対的に分析・評価し、今後、各施設の基本的な方向性（案）を検証するための起点となる基礎情報を得ることとします。

図表 施設分析・評価フロー



1-2 対象とする施設

施設分析・評価の対象は、以下に示す本市が保有する公共建築物（ハコモノ）337施設とします。これら施設について、施設分類「中分類」ごとに個々の施設について分析・評価を行ったうえで、施設分類としてのマネジメントの方向性等について整理とりまとめを行います。

なお施設分類のうち「その他施設－消防・防火施設」については、地域における防災対応として、個々の施設単体としてではなく、総体として施設のあり方等を検討していく必要があることから、個々の施設ではなく、施設全体として別途分析評価を行うこととします。

図表 対象とする施設

施設分類			施設数
大分類	中分類	小分類	
官公署	庁舎等	本庁舎、支所、分庁舎・出張所、 その他事務所等	11
市民文化・社会 教育施設	集会施設	-	5
	文化施設	-	2
	図書館	-	5
	社会教育施設	公民館等、文化財施設等、青少年 施設等、公民館分館、集会所 等	27
学校教育施設	小学校	-	19
	中学校	-	7
	その他教育施設	給食センター	3
子育て支援施設	保育所	-	12
	学童保育施設	-	7
	児童館	-	4
保健福祉・医療 施設	保健施設	-	5
	福祉施設	-	6
	診療所	-	1
スポーツレクリ エーション施設	スポーツ施設	公園等、体育館等	12
	レクリエーション施設	-	3
産業施設	産業施設	物産販売所等、その他産業施設	26
公営住宅	公営住宅	公営住宅、改良住宅	29
その他施設	供給処理施設	-	4
	斎場・墓苑	-	3
	消防・防災施設	消防器具庫、水防倉庫、防火水 槽、その他消防・防災施設	146
合計			337

※施設分類及び施設数は平成27年3月現在。

※「その他施設」を除く施設分類（大分類及び中分類）は、「紀の川市公共施設白書（平成27年4月）」による。

2 分析・評価の方法

基本的な分析・評価の方法を以下の通り設定します。このうち、「①建物性能(ハード面)」の評価方法は、全ての施設について共通の内容とします。また、「②施設機能(サービス面)」の評価方法は、施設の特性に応じて用いる定量データが異なることから、詳細な内容に関しては、それぞれの分類の中で述べることにします。

なお、分析・評価に用いた下記のデータのうち、【劣化状況】は、平成 27 (2015) 年 9 月に実施した所管課に対するアンケート、それ以外のデータは、「紀の川市公共施設白書 (平成 27 (2015) 年 3 月)」の策定過程において把握したデータに基づいています。

(1) 「建物性能 (ハード面)」の評価

①経過年数

建築年から調査時点 (平成 27 (2015) 年) までの経過満了した年数を評価します。

②劣化状況

平成 27 (2015) 年 9 月に実施した所管課に対するアンケートの結果に基づき、以下の 6 項目に対する該当の有無を把握し、チェックの付いた項目の数から建物等の劣化の状況の評価します。

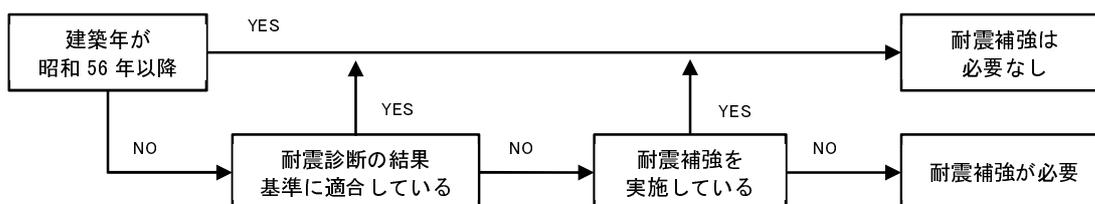
なお、公営住宅についてはアンケート結果の他に、「紀の川市営住宅等長寿命化計画」の「1-3 維持管理の現況」で示された修繕履歴も考慮して評価を行いました。

図表 「劣化状況」のアンケート項目

No.	質問の内容
1	主たる建物の外壁にひび割れ (針が入るぐらいのひび)、はがれ (塗装のはがれを除く)、さび等が多くある
2	主たる建物で雨漏りが発生している
3	主たる建物の空調機 (施設の大部分を占めるもの) が故障 (ほぼ毎年や年に複数回) する
4	主たる建物の給水施設 (施設の大部分を占めるもの) が故障 (ほぼ毎年や年に複数回) する
5	さび等により水が濁ることがある
6	主たる出入口や非常用出口の扉が開閉しづらい (油を注せば直る程度は除く)

③耐震補強の必要性

各施設の耐震基準適合状況について、建築年や近年実施した耐震診断の結果、耐震改修の実施状況等から、耐震補強の必要性の有無を評価します。



④評価結果のまとめ

以上の結果を整理し建物性能の評価結果としてまとめます。

図表 「建物性能（ハード面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
経過年数 (20点満点)	経過年数	建物の建築後の経過年数を4段階で評価します。 20点：経過年数が10年未満 15点：経過年数が10年以上20年未満 10点：経過年数が20年以上30年未満 5点：経過年数が30年以上40年未満 0点：経過年数が40年以上
劣化状況 (20点満点)	劣化状況	所管課への書面調査(アンケート)の結果に基づき、全6項目に対しチェックの付いた項目の数から建物等の劣化状況を4段階で評価します。 ※建物性能を適切に保つ上での影響を鑑み、項目No.1・2はそれぞれチェック1つ分で2項目(※両方にチェックが入った場合の項目の数は4項目)とカウントします。 20点：チェックなし 15点：チェックが1項目 10点：チェックが2～3項目 5点：チェックが4項目以上
耐震補強の必要性 (10点満点)	耐震補強の必要性の有無	建築年や近年実施した耐震診断の結果、耐震改修の実施状況等から、耐震補強の必要性の有無を2段階で評価します。 10点：耐震補強不要 0点：耐震補強必要
評価ランク (50点満点)		評価点の合計値に基づき、建物の性能を4段階でランク付けします。 【a】37.5点(50点×75%)超 【b】25点(50点×50%)超37.5点以下 【c】12.5点(50点×25%)超25点以下 【d】12.5点以下

(2) 「施設機能（サービス面）」の評価

「施設機能（サービス面）」の評価で用いる指標は、施設分類でサービスの内容が異なることから、以下に示す内容で施設分類ごとに設定しました。

図表 施設機能（サービス面）評価の指標一覧

施設分類			施設数	施設機能（サービス面）					備考	
大分類	中分類	小分類		評価指標				分析まとめ		
				現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡 ^{※1}			
官公署	庁舎等	本庁舎、支所、分庁舎・出張所、その他事務所等	11	○	-	-	-	-	○	市外を含め不特定多数が利用する公平なサービスを提供する施設として、現在供用中/休止中の施設として一律に評価している
市民文化・社会教育施設	集会施設	-	5	○	利用者数	-	利用圏域内の重複施設数	A	○	
	文化施設	-	2	○	利用者数	-	利用圏域内の重複施設数	A	○	
	図書館	-	5	○	貸出冊数	-	-	B	○	
	社会教育施設	公民館等、文化財施設等、青少年施設等、公民館分館、集会所等	27	○	利用者数	-	-	A	○	
学校教育施設	小学校	-	19	○	在籍児童数	校区内の6~11歳人口	※2	C	○	
	中学校	-	7	○	在籍生徒数	校区内の12~14歳人口	※2	C	○	
	その他教育施設	給食センター	3	○	対象児童・生徒数	各小学校校区内の6~14歳人口	※2	C	○	
子育て支援施設	保育所	-	12	○	在籍幼児数	利用圏域内の0~5歳人口	利用圏域内の重複施設数	C	○	
	学童保育施設	-	7	○	在籍児童数	-	利用圏域内の重複施設数	C	○	
	児童館	-	4	○	利用者数	-	-	A	○	
保健福祉・医療施設	保健施設	-	5	○	利用者数	-	-	A	○	
	福祉施設	-	6	○	利用者数	-	-	A	○	
	診療所	-	1	○	利用者数	-	-	A	○	
スポーツレクリエーション施設	スポーツ施設	公園等、体育館等	12	○	利用者数	-	-	A	○	
	レクリエーション施設	-	3	○	利用者数	-	-	A	○	
産業施設	産業施設	物産販売所等、その他産業施設	26	○	利用者数	-	-	A	○	
公営住宅	公営住宅	-	29	○	入居戸数	-	-	D	○	
その他施設	供給処理施設	ゴミ処理センター	4	-	-	-	-	-	-	受益者（利用者）が不特定かつ広範囲に渡っており、また稼働状況も個々の施設ごとに異なるなど施設機能の一律の評価が困難なことから、建物性能（ハード面）の評価のみを実施
	斎場・墓苑	-	3	-	-	-	-	-	-	
	消防・防火施設	消防器具庫、水防倉庫、防火水槽、その他	146	-	-	-	-	-	-	

※1 経費の多寡で利用する指標の区分は、以下に示すとおり。

- A：利用者一人当たりのコスト総額（円/人）
- B：貸出図書一冊当たりのコスト総額（千円/冊）
- C：児童・生徒一人当たりのコスト総額（千円/人）
- D：延床面積当たりのコスト総額（千円/㎡）

※2 小中学校等の施設の配置については、現在「適正規模・適正配置等に関する手引」（文部科学省平成27年1月）に基づき、適正に配置されているものとした。

①施設の需要

平成23（2011）年度～25（2013）年度における年間利用者数の推移や3ヶ年平均の貸室稼働率など、各施設の特性に応じて指標を使い分けながら、どの程度利用されているのかを評価します。

さらに、利用者の年齢層が特定可能な施設を対象に、当該年齢層の人口が概ね25年後の平成52（2040）年までにどの程度増減するのかを把握し、将来見込まれるサービス需要の程度

を評価します。

具体的には、既存施設を中心に下表のとおり任意の利用圏域を設定し、将来人口の推計結果を活用し、当該圏域内で将来的に見込まれる利用者数の多寡を評価します。

図表 施設種類別利用圏域の設定

対象施設		圏域の広さ
大分類	中分類	
学校教育施設	小学校	通学区域（小学校区）
	中学校	通学区域（中学校区）
市民文化・社会教育施設	集会施設、文化施設等	半径 3km 以内
福祉施設	保育所	半径 500m 以内
	学童保育室	半径 2km 以内

なお、一般的な施設分類別の利用圏域の大きさは、下表の「コミュニティの単位と施設配置のパターン」に示すとおりです。

参考図表 コミュニティの単位と施設配置のパターン例

	集落	基礎集落	1次生活圏	2次生活圏	3次生活圏
圏域の限界	半径不定 (自然集落)	最大半径 1km 最適半径 500m	最大半径 4km 最適半径 2~3km	最大半径 6km 最適半径 4km	ほぼ 15~30km
時間距離の限界		幼児の通園（徒歩）の限界 徒歩 15~30分	小学生の通学（徒歩）限界	徒歩 1時間 自転車 20分	バス 60分
人口・戸数		500~1,500人 100~300戸	4,000~5,000人 800~1,000戸	10,000人以上 2,000~3,000戸	

出典：新建築学大系 21

②施設の配置

「小学校」、「中学校」、「保育所」、「集会施設」等を対象に、施設間の利用圏域の重複度合いから施設配置のバランスを評価します。

③経費の多寡

「紀の川市公共施設白書」（平成 27（2015）年 3 月）の作成時に把握した平成 23（2011）～25（2013）年度実績の平均額に基づき、利用者 1 人当たりや利用 1 件当たり等のコストなど、各施設の特性に応じて指標を使い分けながら、施設の維持管理・運営に投じている経費の多寡を評価します。

図表 経費の内訳

経費の内訳			
維持管理費 (施設に係るコスト)	燃料費・光熱水費	運営費 (事業に係るコスト)	委託料(事業に係る経費)
	修繕料		消耗品費等
	委託料(維持管理に係る経費)		通信運搬費
	使用料及び賃借料		手数料
	工事請負費等		負担金
			補助金等
		人件費	

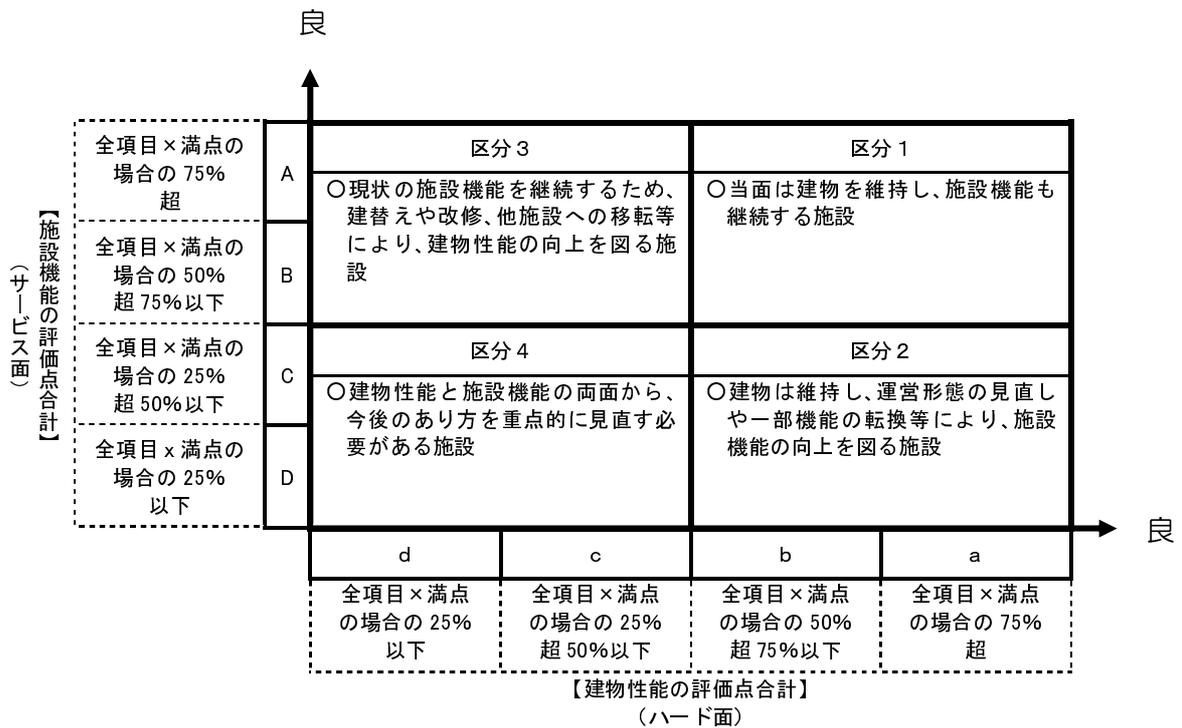
④評価結果の取りまとめ

以上の結果を整理し、施設機能の評価結果として取りまとめます。

(3) 「建物性能 (ハード面)」と「施設機能 (サービス面)」による2軸分析評価

下図に示すように、横軸に建物性能、縦軸に施設機能の評価結果を配置した2軸分析により、各施設を「区分1～4」に分類し、総合評価を行います。

図表 2軸分析評価のイメージ



II 個別施設の分析・評価

1 官公署

1-1 庁舎等

(1) 施設概要

本市は現在、本庁舎並びに支所、事務所等として活用している旧町庁舎等を 11 施設有しています。

本庁舎が打田地域に 2013 年に新設されたほかは、旧町の庁舎を受け継ぐかたちで既存の施設を支所、出張所として活用しています。

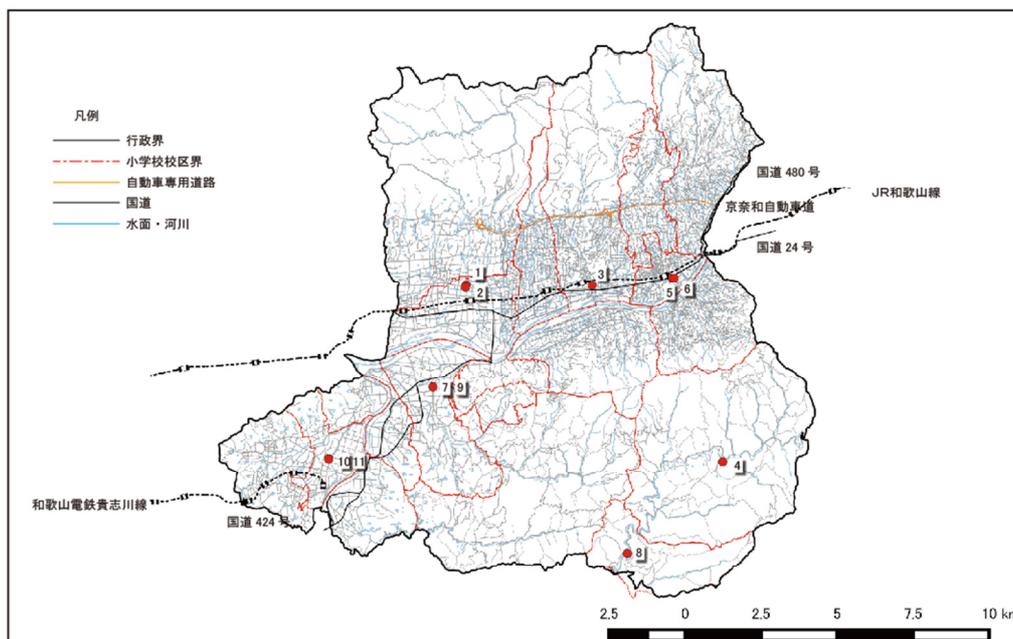
本庁舎（南館）及び那賀支所、貴志川支所は保健福祉センター、細野生活改善センターは簡易郵便局を併設しています。また旧貴志川分庁舎には、平成 27 年度に図書館の併設が予定されています。

図表 庁舎等の概要

地域	No	施設名	小分類	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
						名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	本庁舎	本庁舎	2013	14,736	本庁舎	S	2013	不要	-		直営
	2	本庁舎（南館）	本庁舎	1988	1,076	事務所等	RC	1998	不要	-	○1	直営
粉河	3	粉河分庁舎	支所	1957	3,590	支所	RC	1964	未実施	-		直営
	4	鞆瀬出張所	分庁舎・出張所	1977	697	出張所	RC	1977	未実施	未実施		直営
那賀	5	那賀支所	支所	1997	2,583	支所	RC	1997	不要	-	○1	直営
	6	旧那賀分庁舎	分庁舎・出張所	1964	2,773	事務所等	RC	1964	未実施	未実施	○3、※	直営
桃山	7	旧桃山分庁舎	分庁舎・出張所	2013	2,358	事務所等	RC	1974	未実施	未実施	※	直営
	8	桃山支所 (IT 親子ホール)	事務所等	2013	1,174	支所	RC	2002	不要	-	○3	直営
	9	細野生活改善センター	支所	1982	190	生活改善センター (旧)診療所	構造不明 W	1982 1961	不要 (不明)	- (不明)	○2	直営
貴志川	10	旧貴志川分庁舎	分庁舎・出張所	2013	4,376	事務所等	RC	1981	実施済	実施済	○3	直営
	11	貴志川支所	支所	2000	1,490	支所	RC	2000	不要	-	○1	直営

○1：保健福祉センターを併設 ○2：簡易郵便局を併設 ○3：図書館を併設（予定含む）
※：現在閉鎖中の施設

図表 庁舎等の配置状況



(2) 施設評価

① 「建物性能（ハード面）」の評価

施設の約半数が築30年以上を経過し、また耐震補強が必要な施設も半数存在します。

図表 庁舎等の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過	評価	劣化	評価	耐震補強	評価	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
				年数	点	状況	点		点			
1	打田	本庁舎	H25(2013)	2	20	0	20	不要	10	50	a	
2	打田	本庁舎(南館)	H10(1998)	17	15	0	20	不要	10	45	a	○1
3	粉河	粉河分庁舎	S39(1964)	51	0	8	5	必要	0	5	d	※1
4	粉河	鞆渚出張所	S52(1977)	38	5	0	20	必要	0	25	c	
5	那賀	那賀支所	H9(1997)	18	15	0	20	不要	10	45	a	○1、○3
6	那賀	旧那賀分庁舎	S39(1964)	51	0	-	5	必要	0	5	d	※2
7	桃山	旧桃山分庁舎	S49(1974)	41	0	-	5	必要	0	5	d	※2
8	桃山	細野生活改善センター	S57(1982)	13	5	2	15	不要	10	30	b	○2
9	桃山	桃山支所(IT親子ホール)	H14(2002)	33	15	0	20	不要	10	45	a	○3
10	貴志川	旧貴志川分庁舎	S56(1981)	34	5	0	20	不要	10	35	b	○3
11	貴志川	貴志川支所	H12(2000)	15	15	1	15	不要	10	40	a	○1
特記事項		- : データ無し ○1 : 保健福祉センターを併設 ○2 : 簡易郵便局を併設 ○3 : 図書館を併設(予定含む) ※1 : 平成28年1月4日から粉河ふるさとセンターへ移転。 ※2 : 現在閉鎖中で劣化状況の調査不可につき、劣化状況は同時期建築の粉河分庁舎と同等とした。										

② 「施設機能（サービス面）」の評価

庁舎等は、市政及び行政事務等に係る拠点施設として市内外から不特定多数の利用者が訪れる施設として利用されており、施設機能（サービス面）の定量的な評価は行えませんが、現在市内全域で公平なサービスを提供するものとして供用中の施設を一律A評価とし、現在休止中の施設（旧那賀分庁舎及び旧桃山分庁舎）について一律C評価と設定しました。

図表 庁舎等の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	ランク
1	打田	本庁舎	A
2	打田	本庁舎(南館)	A
3	粉河	粉河分庁舎	A
4	粉河	鞆渚出張所	A
5	那賀	那賀支所	A
6	那賀	旧那賀分庁舎	C
7	桃山	旧桃山分庁舎	C
8	桃山	細野生活改善センター	A
9	桃山	桃山支所(IT親子ホール)	A
10	貴志川	旧貴志川分庁舎	A
11	貴志川	貴志川支所	A

《官公署》
《庁舎等》

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能が a、b ランクの施設は区分 1 に、建物性能が d ランクの施設は区分 3 又は区分 4 に分類されますが、それらは平成 28 年 1 月に移転が決定もしくは現在利用閉鎖となっています。

図表 庁舎等の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	小分類	評価ランク		分析結果
				(ハード面) 建物性能	(サービス面) 施設機能	
1	打田	本庁舎	本庁舎	a	A	区分 1
2	打田	本庁舎(南館)	本庁舎	a	A	区分 1
3	粉河	粉河分庁舎	支所	d	A	区分 3
4	粉河	鞆出出張所	分庁舎・出張所	c	A	区分 3
5	那賀	那賀支所	支所	a	A	区分 1
6	那賀	旧那賀分庁舎	分庁舎・出張所	d	C	区分 4
7	桃山	旧桃山分庁舎	分庁舎・出張所	d	C	区分 4
8	桃山	細野生活改善センター	事務所等	b	A	区分 1
9	桃山	桃山支所(IT親子ホール)	支所	a	A	区分 1
10	貴志川	旧貴志川分庁舎	分庁舎・出張所	b	A	区分 1
11	貴志川	貴志川支所	支所	a	A	区分 1

※赤字：現在閉鎖中の施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3 粉河分庁舎 鞆出出張所		区分1 本庁舎 本庁舎(南館) 那賀支所 細野生活改善センター 桃山支所(IT親子ホール) 貴志川支所	
	C	区分4 旧那賀分庁舎 旧桃山分庁舎		区分2	
		d	c	b	a

ハード面

※赤字：現在閉鎖中の施設

2 市民文化・社会教育施設

2-1 集会施設

(1) 施設概要

本市は現在、集会所、コミュニティセンターなどの集会施設を5施設有しています。地域別では、粉河地域に3施設、桃山地域に1施設、貴志川地域に1施設となっています。

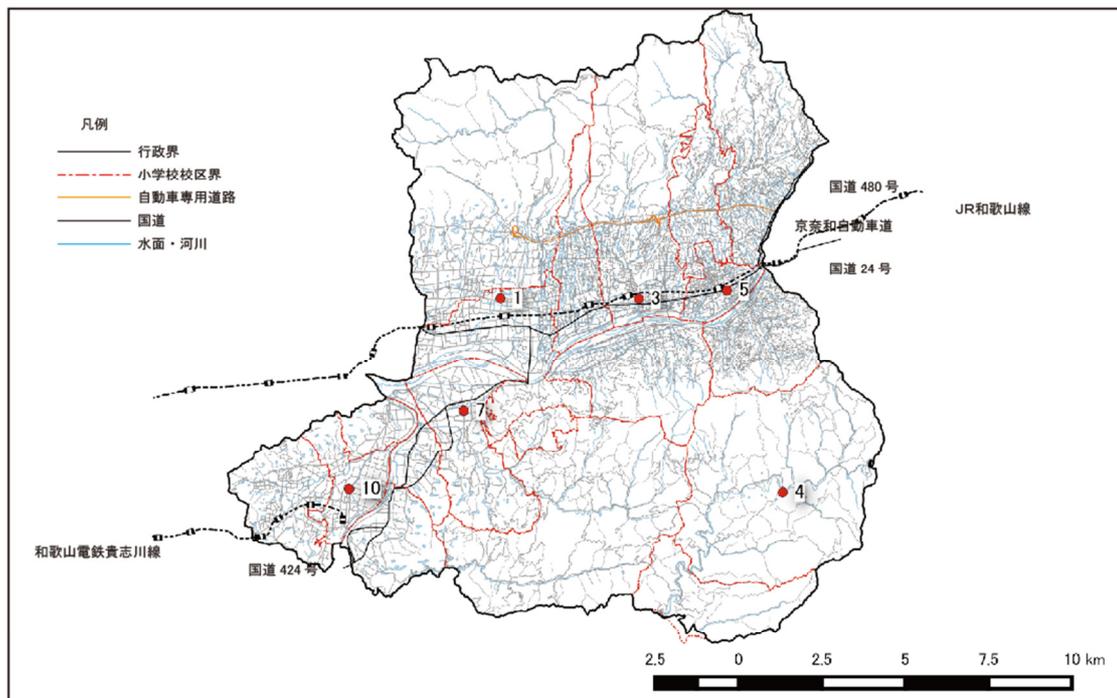
集会施設のうち、最も建築年が古い下鞆淵へき地集会所は老朽化のため現在施設停止中ですが、その他の集会所は1990年代～2000年代初頭に多く建設されています。施設のなかには、新耐震基準（昭和56年6月）以前の建物も存在しますが、耐震診断の義務を要する規模以下の建物として継続して利用が図られています。

図表 集会施設の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (m ²)	主な建築物			耐震化状況		併設 施設等	管理運営 状況
					名称等	構造	建築年	耐震 診断	耐震 改修		
粉河	1	上鞆淵集会所	2003	86	集会所	W	2003	不要	-		直営
	2	下鞆淵集会所	2002	89	集会所	W	2002	不要	-		直営
	3	下鞆淵へき地集会所	1958	206	集会所	W	1958	未実施	未実施	※1	直営
桃山	4	ふれあいコミュニティセンター	1993	1,010	センター	RC	1993	不要	-		直営
貴志川	5	長山団地自治会館	1979	469	集会所	S	1990	不要	-		直営
					集会所	S	1979	不要	-		直営

※1 「3 下鞆淵へき地集会所」は、老朽化のため現在施設停止中。

図表 集会施設の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

下鞆渚へき地集会所を除き、経過年数は30年以下で耐震補強は必要ありません。下鞆渚へき地集会所は経過年数57年と古い事から劣化も多く見られ、耐震補強が必要ですが、現在は老朽化のため利用停止中となっています。

図表 集会施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過	評価点	劣化	評価点	耐震	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
				年数		状況		補強				
1	粉河	上鞆渚集会所	H15(2003)	12	15	0	20	不要	10	45	a	
2	粉河	下鞆渚集会所	H14(2002)	13	15	0	20	不要	10	45	a	
3	粉河	下鞆渚へき地集会所	S33(1958)	57	0	6	5	必要	0	5	d	※1
4	桃山	ふれあいコミュニティセンター	H5(1993)	22	10	3	10	不要	10	30	b	
5	貴志川	長山団地自治会館	H2(1990)	25	10	0	20	不要	10	40	a	
特記事項		※1 老朽化のため現在施設停止中										

②「施設機能（サービス面）」の評価

「施設機能（サービス面）」の評価方法

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 集会施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し 0点: 現在閉鎖中の施設
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	利用者1人当たりのコスト総額	利用者1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超 0点: 現在閉鎖中の施設
②-1 施設の配置		
施設の配置 (20点満点)	利用圏域内の重複施設数	既存の集会施設を中心に利用圏域内で重複している集会施設の施設数に応じて4段階で評価 20点: 重複無し 15点: 重複施設が1施設 10点: 重複施設が2施設 5点: 重複施設が3施設以上
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超30点以下 【D】15点以下	

施設の需要

利用者データはふれあいコミュニティセンターのみ確認出来ています。

ふれあいコミュニティセンターの平成23～25年度の年間利用者数は、約8.8千人で、平成24～25年度にかけては増加しましたが、全体的には減少傾向となっています。

他の施設については、利用データがありませんので、評価点は一律5点とし、現在閉鎖中の施設については0点と設定しました。

図表 集会施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の需要	
			実績値			評価点	予測値	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	粉河	上鞆渚集会所	-	-	-	5	-	-
2		下鞆渚集会所	-	-	-	5	-	-
3		下鞆渚へき地集会所 ※	-	-	-	0	-	-
4	桃山	ふれあいコミュニティセンター	▲ 3.2	1.4	▲ 1.9	10	-	-
5	貴志川	長山団地自治会館	-	-	-	5	-	-
全体								

－：データ無し

※現在閉鎖中の施設

経費の多寡

ふれあいコミュニティセンターの利用者1人あたりのコストは、約699円/人となります。

他の施設については、経費に関するデータがありませんので、評価点は一律5点とし、現在閉鎖中の施設については0点と設定しました。

図表 集会施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	利用者数 人	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持管理費 万円	運営経費 万円	人件費 万円	総額 万円	総額 円/人	平均額との差 %	評価点 点
1	粉河	上鞆渚集会所	86	-	-	-	-	-	-	-	5
2		下鞆渚集会所	89	-	-	-	-	-	-	-	5
3		下鞆渚へき地集会所 ※	206	-	-	-	-	-	-	-	0
4	桃山	ふれあいコミュニティセンター	1,010	8,775	325	289	-	613	699	0	10
5	貴志川	長山団地自治会館	469	-	-	-	-	-	-	-	5
全体			1,861	8,775	325	289	0	613	699		

－：データ無し

※現在閉鎖中の施設

施設の配置

集会施設の利用圏域を半径 3 km と設定した場合、上鞆渚集会所、下鞆渚集会所、下鞆渚へき地集会所の 3 施設について、それぞれ利用圏域が一部もしくは全域が重複しています。

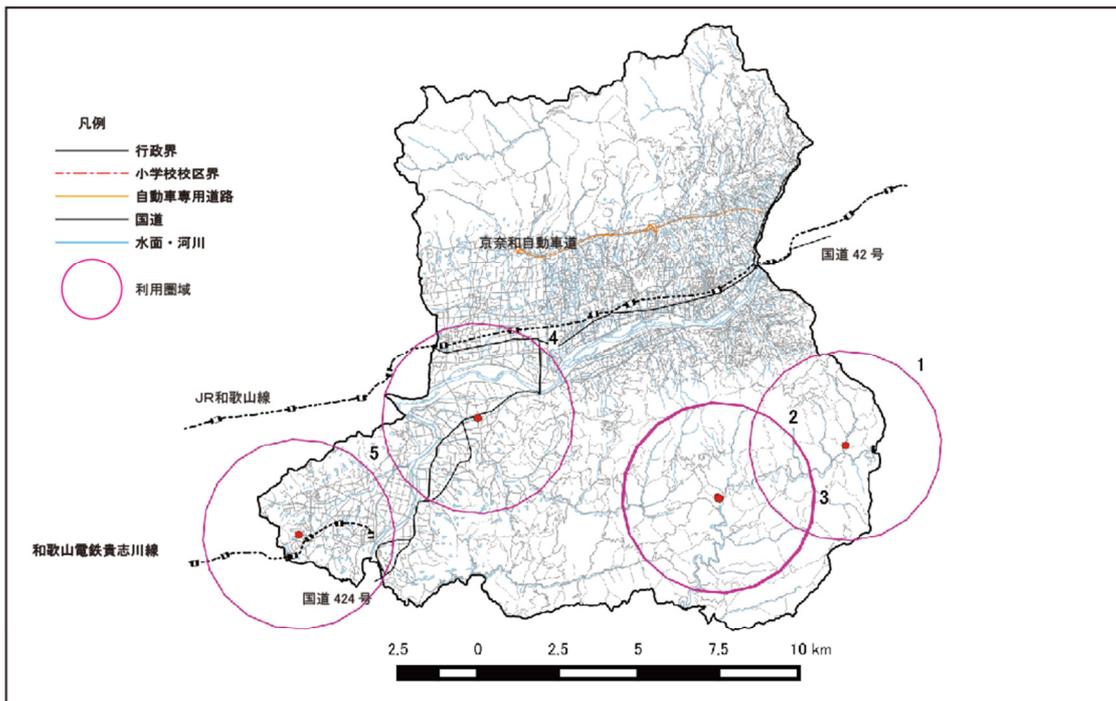
図表 集会施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の配置）

No	地域	施設名	重複施設	
			No.	評価点
1	粉河	上鞆渚集会所	2、3	10
2		下鞆渚集会所	1、3	10
3		下鞆渚へき地集会所 ※	1、2	10
4	桃山	ふれあいコミュニティセンター	-	20
5	貴志川	長山団地自治会館	-	20

- : データ無し

※現在閉鎖中の施設

図表 既存施設を中心に利用圏域を半径 3km とした場合の重複状況（集会施設）



《市民文化・社会教育施設》
 《集会施設》

「施設機能（サービス面）」の評価結果

ふれあいコミュニティセンター以外は、現在の需要と経費の多寡の評価点が低いため、Cランクが多くなっています。

図表 集会施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	粉河	上鞆渕集会所	5	-	10	5	20	C
2		下鞆渕集会所	5	-	10	5	20	C
3		下鞆渕へき地集会所 ※	0	-	10	0	10	D
4	桃山	ふれあいコミュニティセンター	10	-	20	10	40	B
5	貴志川	長山団地自治会館	5	-	20	5	30	C

※現在閉鎖中の施設

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

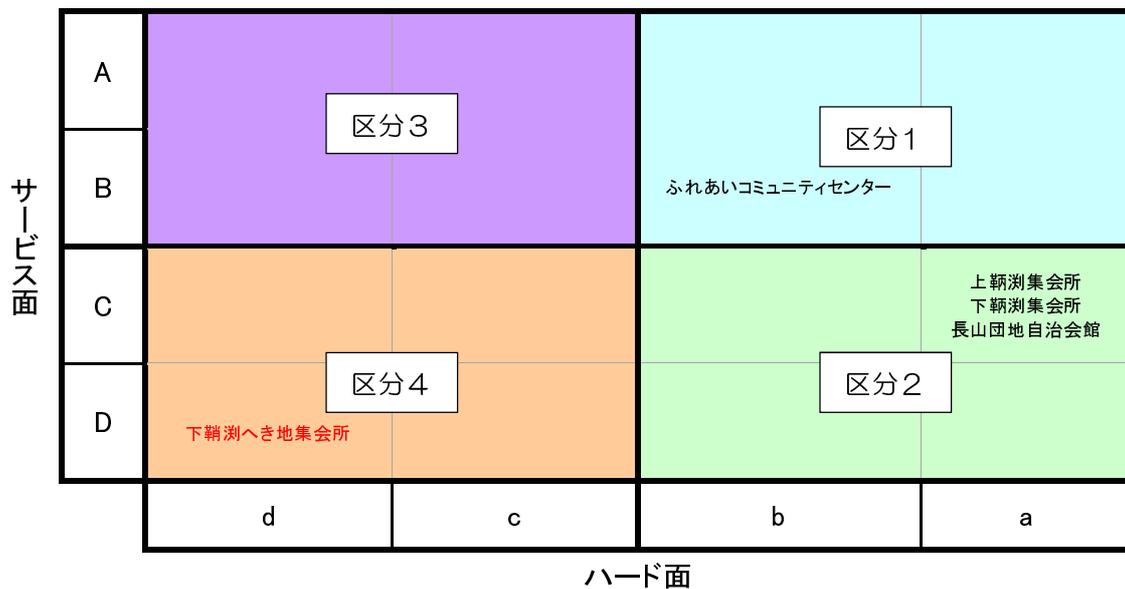
建物性能は、下鞆淵へき地集会所以外はa又はb評価ですが、ふれあいコミュニティセンター以外は施設機能の評価が低いため区分2に分類されます。

図表 集会施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	粉河	上鞆淵集会所	a	C	区分2
2	粉河	下鞆淵集会所	a	C	区分2
3	粉河	下鞆淵へき地集会所	d	D	区分4
4	桃山	ふれあいコミュニティセンター	b	B	区分1
5	貴志川	長山団地自治会館	a	C	区分2

※赤字：現在閉鎖中の施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設



※赤字：現在閉鎖中の施設

2-2 文化施設

(1) 施設概要

本市の文化施設として、粉河地域の粉河ふるさとセンター及び貴志川地域の貴志川生涯学習センターの2施設を有しています。

両施設とも1994年に建設されており、施設内には公民館や図書館が併設されるなど、地域の文化活動の拠点として利用が図られています。

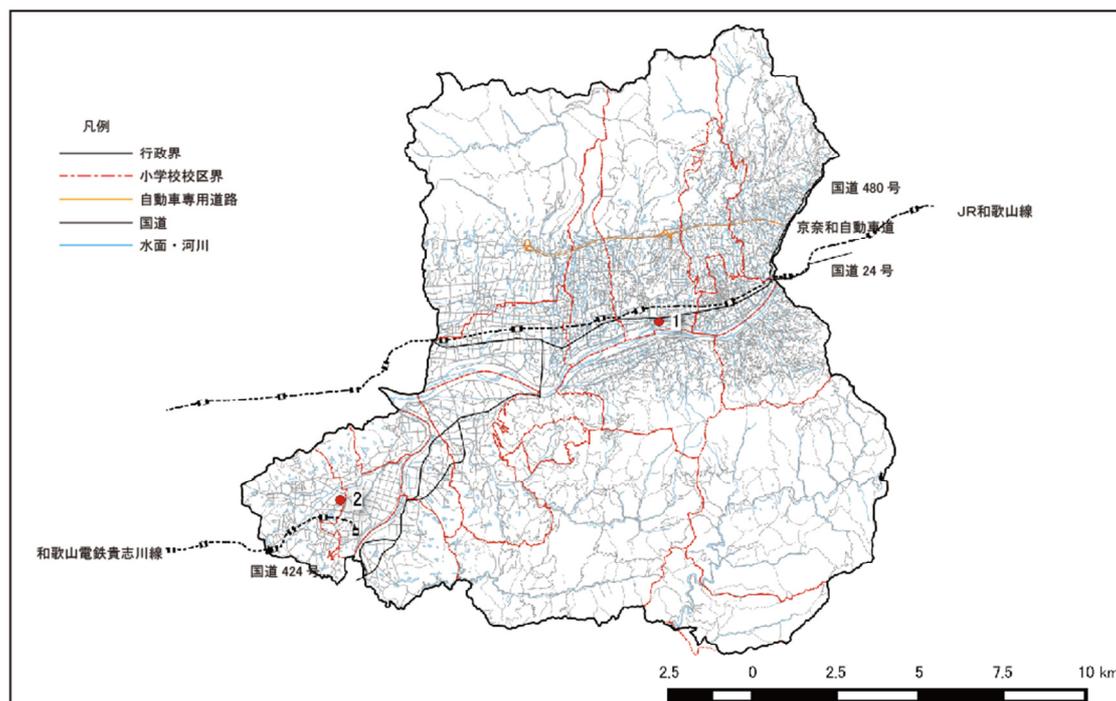
図表 文化施設の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設 施設等	管理運営 状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
粉河	1	粉河ふるさとセンター	1994	3,047	センター本館（ホール）	RC	1994	不要	-	○1	直営
貴志川	2	貴志川生涯学習センター	1994	1,491	センター本館（ホール）	RC	1994	不要	-	○2	直営

○1：公民館、図書館を併設。

○2：公民館、図書館、老人憩の家を併設。

図表 文化施設の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

両施設ともに築20年以上を経過し、また劣化が進んでいるため評価はcランクとなっています。

図表 文化施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過	劣化	耐震	評価点	評価点	評価点	評価点	評価ランク	備考 (併設の有無)
				年数	状況	補強						
1	粉河	粉河ふるさとセンター	H6(1994)	21	5	不要	10	25	c	○1		
2	貴志川	貴志川生涯学習センター	H6(1994)	21	4	不要	10	25	c	○2		
特記事項		○1：公民館、図書館を併設 ○2：公民館、図書館、老人憩の家を併設										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。
これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 文化施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (20点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 20点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 15点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (20点満点)	利用者1人当たりの コスト総額	利用者1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 15点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 施設の配置		
施設の配置 (20点満点)	利用圏域内の重 複施設数	既存の文化施設を中心に利用圏域内で重複している文化施設の施設数に応じて4段階で評価 20点: 重複無し 15点: 重複施設が1施設 10点: 重複施設が2施設 5点: 重複施設が3施設以上
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超30点以下 【D】15点以下	

施設の需要

粉河ふるさとセンターの利用者数は現状維持～微減で推移している一方、貴志川生涯学習センターは減少傾向が続いています。

図表 文化施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				評価点	将来の需要	評価点
			実績値			予測値			
			H23→24	H24→25	H23→25				
1	粉河	粉河ふるさとセンター	▲ 3.7	0.6	▲ 3.2	10	-	-	
2	貴志川	貴志川生涯学習センター	▲ 27.3	▲ 2.2	▲ 40.7	5	-	-	
全 体									

経費の多寡

利用者の少ない貴志川生涯学習センターの方が利用者一人あたりのコストは高くなっています。

図表 文化施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	利用者数 人	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持管理費	運営経費	人件費	総額	総額	平均額との差	評価点
					万円	万円	万円	万円	円/人	%	
1	粉河	粉河ふるさとセンター	3,047	48,739	2,562	517	-	3,079	632	▲ 21	20
2	貴志川	貴志川生涯学習センター	1,491	16,965	1,305	866	-	2,171	1,280	60	5
全 体			4,538	65,704	3,867	1,383	0	5,250	799		

—：データ無し

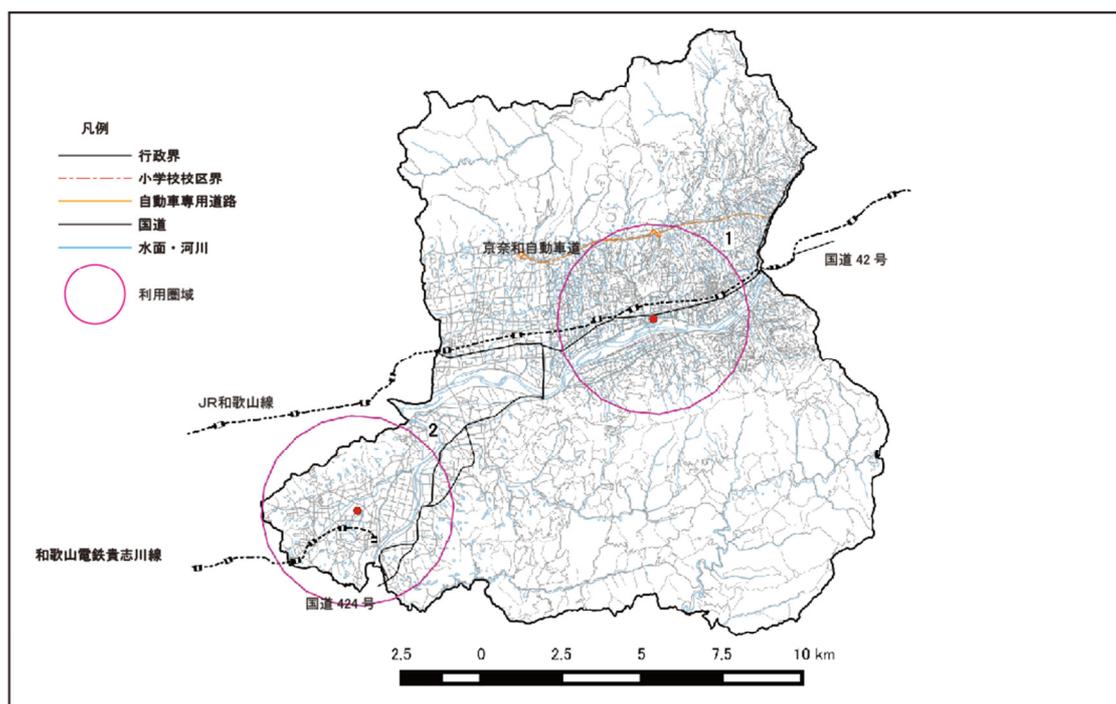
施設の配置

既存施設を中心に利用圏域を半径 3km とした場合、利用圏域の重複は見られません。

図表 文化施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の配置）

No	地域	施設名	重複施設	
			No.	評価点
1	粉河	粉河ふるさとセンター	-	20
2	貴志川	貴志川生涯学習センター	-	20

図表 文化施設の既存施設を中心に利用圏域を半径 3km とした場合の重複状況



「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要と経費の多寡に関する評価点の相違により、粉河ふるさとセンターはランク A、貴志川学習センターはランク C と差が表れます。

図表 文化施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点 合計	ランク
1	粉河	粉河ふるさとセンター	10	-	20	20	50	A
2	貴志川	貴志川生涯学習センター	5	-	20	5	30	C

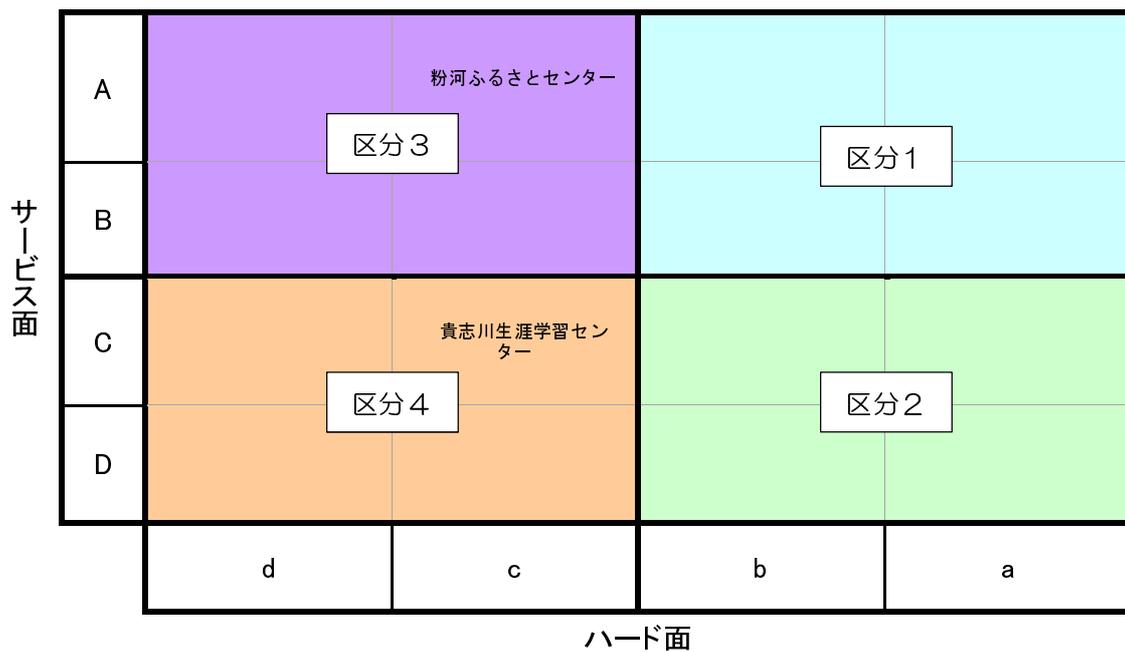
③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能は両施設ともにcランクで、施設機能が粉河ふるさとセンターがAランクのため区分3に、貴志川生涯学習センターがCランクのため区分4に分類されます。

図表 文化施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			(ハード面) 建物性能	(サービス面) 施設機能	
1	粉河	粉河ふるさとセンター	c	A	区分3
2	貴志川	貴志川生涯学習センター	c	C	区分4

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設



2-3 図書館

(1) 施設概要

本市の図書館は、平成26年度まで地域ごとの1施設ずつ計5施設の図書館が開設されていましたが、平成27年度に粉河図書館、那賀図書館、桃山図書館、貴志川図書館の4館を閉館し、旧貴志川分庁舎1階に新図書館の開設が予定され、計2施設として利用の見直しが図られます。

図表 図書館の概要

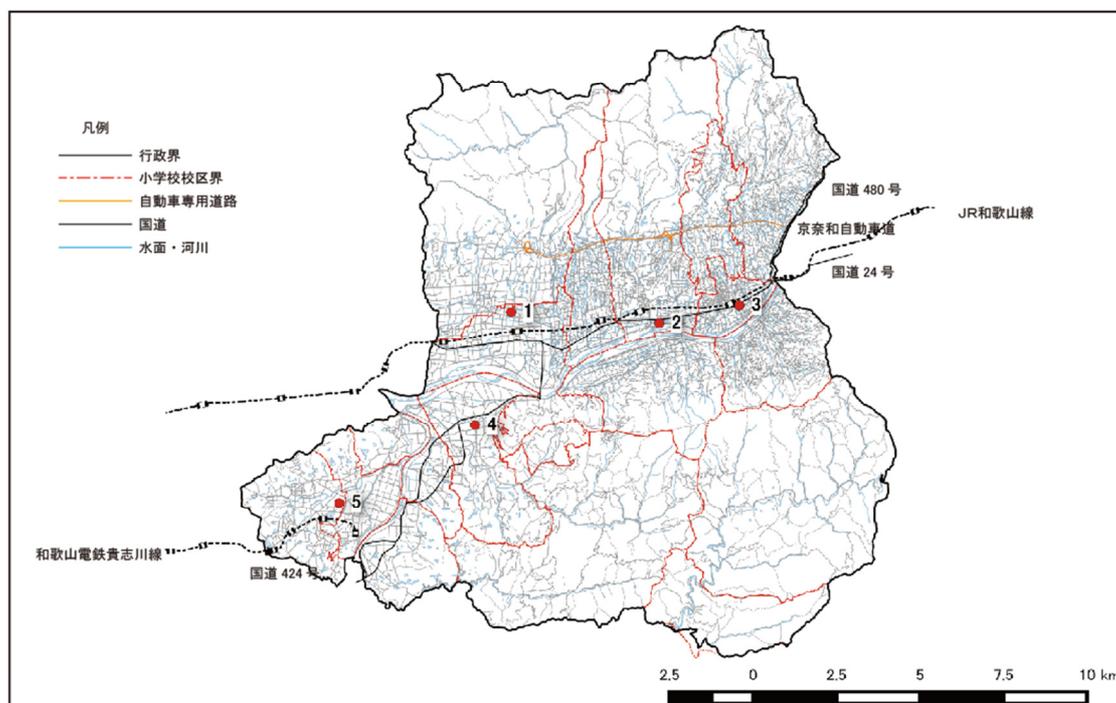
地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	打田図書館 (打田生涯学習センター内)	2005	2,713	(打田生涯学習センターを参照)					※1	直営
粉河	2	粉河図書館 (粉河ふるさとセンター内)	1994	661	(粉河ふるさとセンターを参照)					※2	直営
那賀	3	那賀図書館 (旧那賀分庁舎内)	1964	1,805	(旧那賀分庁舎を参照)					※2	直営
桃山	4	桃山図書館 (IT親子ホール内)	2002	1,174	(桃山支所(IT親子ホール)を参照)					※2	直営
貴志川	5	貴志川図書館 (貴志川生涯学習センター内)	1994	476	(貴志川生涯学習センターを参照)					※3	直営

※1 「1 打田図書館」は平成27年度「河北図書館」に名称変更。

※2 「2 粉河図書館」、「3 那賀図書館」、「4 桃山図書館」は、平成27年度閉館予定。

※3 「5 貴志川図書館」は、平成27年度閉館、「河南図書館」として旧貴志川分庁舎に移転予定。

図表 図書館の配置状況



(2) 施設評価

① 「建物性能（ハード面）」の評価

市内の図書館は、全て他施設内に設置されているため、図書館単体での建物機能（ハード面）の評価は行っていません。そのため、主施設の評価結果を下表に示します。

また参考として、「5 貴志川図書館」の移転先となる旧貴志川分庁舎の評価結果を併記します。

図表 図書館の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名 (主施設名称)	建築年	経過	評価	劣化	評価	耐震 補強	評価	評価点 合計	評価 ランク	備考 (併設 の有無)
				年数	点	状況	点		点			
1	打田	打田図書館 (打田生涯学習センター)	H17(2005)	10	15	5	5	不要	10	30	b	
2	粉河	粉河図書館 (粉河ふるさとセンター)	H6(1994)	21	10	5	5	不要	10	25	c	
3	那賀	那賀図書館 (旧那賀分庁舎)	S39(1964)	51	0	-	5	必要	0	5	d	※1
4	桃山	桃山図書館 (IT親子ホール)	H14(2002)	13	5	2	15	不要	10	30	b	
5	貴志川	貴志川図書館 (貴志川生涯学習センター)	H6(1994)	21	10	4	5	不要	10	25	c	
		【参考】旧貴志川分庁舎	S56(1981)	34	5	0	20	不要	10	35	b	※2
特記事項		ー：データ無し ※1 旧那賀分庁舎は現在閉鎖中。 ※2 旧貴志川分庁舎は、新図書館の開設が予定されている。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

図表 図書館の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	貸出冊数	平成23年～25年における貸出冊数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	貸出図書1冊当たりのコスト総額	貸出図書1冊当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 貸出図書1冊当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点: 貸出図書1冊当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 貸出図書1冊当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 貸出図書1冊当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超30点以下 【D】15点以下	

施設の需要

全ての施設について、平成23年度以降貸し出し冊数は減少傾向となっています。

図表 図書館の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要（貸出冊数の推移）				将来の需要	
			実績値（%）			評価点	H52/H25	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	打田図書館（打田生涯学習センター内）	▲3	▲7	▲11	5	—	—
2	粉河	粉河図書館（粉河ふるさとセンター内）	▲5	▲0	▲5	5	—	—
3	那賀	那賀図書館（旧那賀分庁舎内）	▲3	▲11	▲16	5	—	—
4	桃山	桃山図書館（IT親子ホール内）	▲16	▲15	▲40	5	—	—
5	貴志川	貴志川図書館（貴志川生涯学習センター内）	▲7	▲8	▲17	5	—	—
施設全体			▲6.0	▲8.1	▲15.7			
特記事項	—: データ無し ※ 那賀図書館（旧那賀分庁舎）は現在閉鎖中。							

経費の多寡

貸出冊数1冊あたりの経費は、167円/冊～373円/冊で、貸出冊数の多い施設ほど低くなる傾向が見られます。

図表 図書館の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	貸出冊数 冊	維持管理・運営コスト				貸出冊数あたりのコスト		
					維持管理費	運営経費	人件費	総額	総額	平均額との差	評価点
					万円	万円	万円	万円	円/冊	%	
1	打田	打田図書館（打田生涯学習センター内）	2,713	154,041	51	1,399	1,665	3,114	202	▲ 18	30
2	粉河	粉河図書館（粉河ふるさとセンター内）	661	12,794	18	305	170	480	375	51	5
3	那賀	那賀図書館（旧那賀分庁舎内）	1,805	14,837	0	305	170	474	320	29	5
4	桃山	桃山図書館（IT親子ホール内）	1,174	33,397	12	390	339	740	222	▲ 11	30
5	貴志川	貴志川図書館（貴志川生涯学習センター内）	476	65,337	12	738	339	1,089	167	▲ 33	30
全体			6,830	280,406	92	3,136	2,682	5,898	248		

※ 那賀図書館は現在閉鎖中。

「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要は全施設とも評価点は5点と低く、経費の多寡で粉河図書館と那賀図書館が評価点が低いことからDランクに、その他の施設はCランクに区分されています。

図表 図書館の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点合計	ランク
1	打田	打田図書館（打田生涯学習センター内）	5	—	—	30	35	B
2	粉河	粉河図書館（粉河ふるさとセンター内）	5	—	—	5	10	D
3	那賀	那賀図書館（旧那賀分庁舎内）	5	—	—	5	10	D
4	桃山	桃山図書館（IT親子ホール内）	5	—	—	30	35	B
5	貴志川	貴志川図書館（貴志川生涯学習センター内）	5	—	—	30	35	B

—：データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

打田図書館及び桃山図書館は、建物性能がbランク、施設機能がBランクのため区分1に分類されます。貴志川図書館は建物性能がcランク、施設機能がBランクのため区分3に分類されます。粉河図書館及び那賀図書館は、建物性能がcまたはbランク、施設機能がDランクのため区分4に分類されます。

図表 図書館の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			(ハード面) 建物性能	(サービス面) 施設機能	
1	打田	打田図書館(打田生涯学習センター内)	b	B	区分1
2	粉河	粉河図書館(粉河ふるさとセンター内)	c	D	区分4
3	那賀	那賀図書館(旧那賀分庁舎内)	d	D	区分4
4	桃山	桃山図書館(IT親子ホール内)	b	B	区分1
5	貴志川	貴志川図書館(貴志川生涯学習センター内)	c	B	区分3

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3		【参考】 旧貴志川分庁舎	区分1
	B	貴志川図書館 (貴志川生涯学習センター内)		打田図書館 (打田生涯学習センター内) 桃山図書館 (IT親子ホール内)	
	C	区分4		区分2	
	D	那賀図書館 (旧那賀分庁舎内)	粉河図書館 (粉河ふるさとセンター内)	b	a
		d	c	ハード面	

※赤字：現在閉鎖中または閉鎖予定の施設

※【参考】旧貴志川分庁舎は、新図書館の開設が予定されている。

※斜体は他の施設内に設置されている施設

2-4 社会教育施設

(1) 施設概要

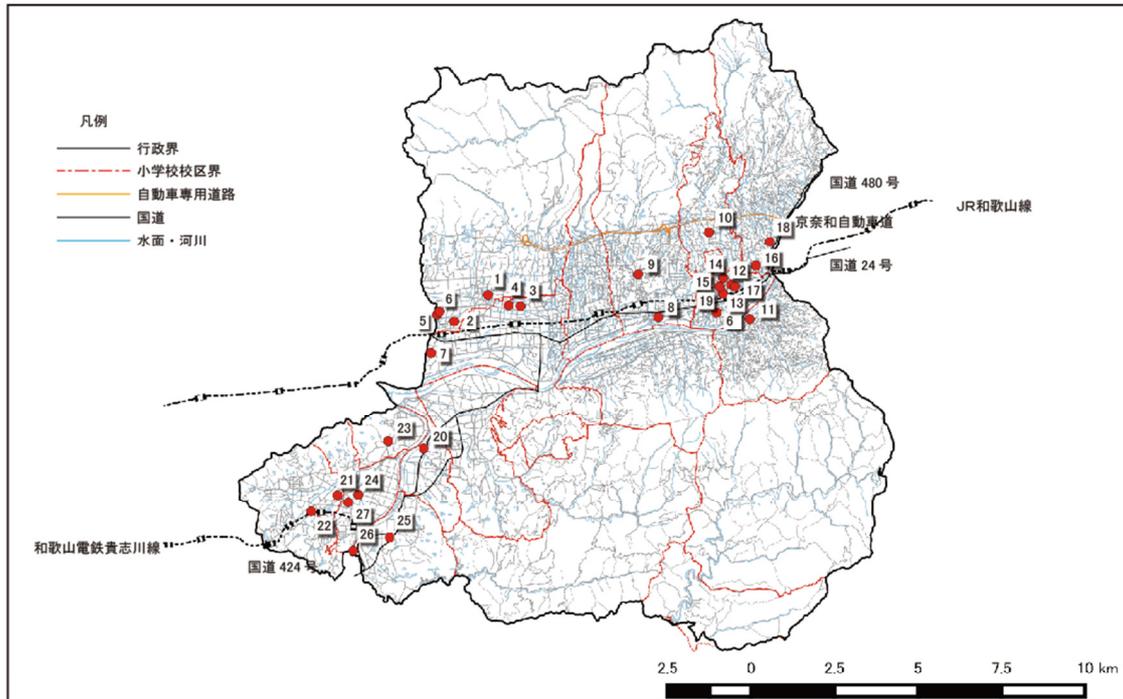
本市は現在、生涯学習センターや資料館、教育集会所、コミュニティセンター（貴志川地域）などの社会教育施設を27施設有しています。地域別では、打田地域及び貴志川地域にそれぞれ7施設、粉河地域に3施設、那賀地域に9施設、桃山地域に1施設となります。

図表 社会教育施設の概要

地域	No.	施設名	小分類	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
						名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	古和田教育集会所	集会所等	1976	210	教育集会所	RC	1976	未実施	未実施		直営
	2	東国分教育集会所	集会所等	1977	340	教育集会所	RC	1977	未実施	未実施		直営
	3	東大井教育集会所	集会所等	1987	311	教育集会所	S	1987	不要	-		直営
	4	打田生涯学習センター	公民館等	2005	2,713	社会教育施設	RC	2005	不要	-	○1	直営
	5	歴史民俗資料館	文化財施設等	1994	923	資料館	RC	1994	不要	-		直営
	6	史跡紀伊国分寺跡歴史公園	文化財施設等	2002	199	国分寺本堂	構造不明	1700	未実施	未実施		直営
	7	西井阪教育集会所（井阪文化会館内）	集会所等	1996	341	（井阪文化会館を参照）						直営
粉河	8	粉河地区公民館（粉河ふるさとセンター内）	公民館等	1994	1,814	（粉河ふるさとセンターを参照）						直営
	9	旧南丘家住宅	文化財施設等	2010	148	主屋	W	1800	未実施	未実施		直営
	10	粉河地区公民館川原分館	公民館分館・コミュニティセンター	不明	425	不明	S	不明	未実施	未実施		直営
那賀	11	那賀地区公民館麻生津分館	公民館分館・コミュニティセンター	1972	521	公民館	S	1972	未実施	未実施		直営
	12	那賀地区公民館名手分館	公民館分館・コミュニティセンター	1971	293	公民館	S	1971	未実施	未実施		直営
	13	西元町教育集会所	集会所等	1975	196	教育集会所	S	1975	未実施	未実施		直営
	14	子ども会館	青少年施設等	1966	302	集会所	RC	1966	未実施	未実施		直営
	15	那賀総合センター	公民館等	1982	1,426	社会教育施設	RC	1982	不要	-		直営
	16	青洲の里春林軒	文化財施設等	1997	503	春林軒	W	1997	不要	-		指定管理
	17	旧名手本陣妹背家住宅・旧名手宿本陣	文化財施設等	1996	401	主屋 米蔵	W その他	1718 1634	（不明） （不明）	（不明） （不明）		直営
	18	那賀地区公民館上名手分館	公民館分館・コミュニティセンター	1969	573	公民館	S	1969	未実施	未実施		直営
	19	那賀地区公民館王子分館	公民館分館・コミュニティセンター	1973	210	公民館	S	1973	未実施	未実施		直営
桃山	20	桃山会館	公民館等	1982	1,426	社会教育施設	RC	1982	不要	-		直営
貴志川	21	貴志川地区公民館（貴志川生涯学習センター内）	公民館等	1994	3,078	（貴志川生涯学習センターを参照）						直営
	22	西貴志コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	1999	1,769	事務所	RC	1999	不要	-		直営
	23	丸栖コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	1987	998	事務所	RC	1987	不要	-		直営
	24	中貴志コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	1981	1,369	事務所	RC	1980	未実施	未実施		直営
	25	東貴志コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	1988	949	事務所	RC	1988	不要	-		直営
	26	貴志川ほたるの館	文化財施設等	1990	110	展示室（講義室）	W	1990	不要	-		直営
	27	青少年センター	青少年施設等	2009	239	事務所	S	1996	不要	-		直営

○1：図書館を併設。

図表 社会教育施設の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

史跡紀伊国分寺跡歴史公園（国分寺本堂）や旧名手本陣妹背家住宅・旧名手宿本陣（主屋）など文化財として保存される建築物を除き、社会教育施設の多くが1970年代～2000年代に建設されており、一部新耐震基準（昭和56年6月）以前の建物も存在しますが、耐震診断の義務を要する規模以下の建物として継続して利用が図られています。

図表 社会教育施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過年数	劣化状況		耐震補強	評価点	評価点合計	評価ランク	備考（併設の有無）	
					評価点	評価点						
1	打田	古和田教育集会所	S51(1976)	39	5	0	20	必要	0	25	c	
2		東国分教育集会所	S52(1977)	38	5	0	20	必要	0	25	c	
3		東大井教育集会所	S62(1987)	28	10	0	20	不要	10	40	a	
4		打田生涯学習センター	H17(2005)	10	15	5	5	不要	10	30	b	○1
5		歴史民俗資料館	H6(1994)	21	10	0	20	不要	10	40	a	
6		史跡紀伊国分寺跡歴史公園	元禄13(1700)	315	0	0	20	必要	0	25	c	
7		西井阪教育集会所 （井阪文化会館内）	H8(1996)	19	15	0	0	不要	10	25	c	※1
8	粉河	粉河地区公民館 （粉河ふるさとセンター内）	H6(1994)	21	10	0	0	不要	10	20	c	※1
9		旧南丘家住宅	寛政12(1800)	215	0	3	10	必要	0	15	c	
10		粉河地区公民館川原分館	（建築年不明）	不明	0	3	10	必要	0	10	d	
11	那賀	那賀地区公民館麻生津分館	S47(1972)	43	0	5	5	必要	0	10	d	
12		那賀地区公民館名手分館	S46(1971)	44	0	3	10	必要	0	15	c	
13		西元町教育集会所	S50(1975)	40	0	2	15	必要	0	20	c	
14		子ども会館	S41(1966)	49	0	0	20	必要	0	25	c	
15		那賀総合センター	S57(1982)	33	5	5	5	不要	10	20	c	
16		青洲の里春林軒	H9(1997)	18	15	5	5	不要	10	30	b	
17		旧名手本陣妹背家住宅・旧名手宿本陣	享保3(1718)	297	0	1	15	必要	0	20	c	
18		那賀地区公民館上名手分館	S44(1969)	46	0	5	5	必要	0	10	d	
19		那賀地区公民館王子分館	S48(1973)	42	0	2	15	必要	0	20	c	
20	桃山	桃山会館	S57(1982)	33	5	1	15	不要	10	30	b	
21	貴志川	貴志川地区公民館 （貴志川生涯学習センター内）	H6(1994)	21	10	0	0	不要	10	20	c	※1
22		西貴志コミュニティセンター	H11(1999)	16	15	1	15	不要	10	40	a	
23		丸栖コミュニティセンター	S62(1987)	28	10	2	15	不要	10	35	b	
24		中貴志コミュニティセンター	S55(1980)	35	5	0	20	必要	0	25	c	
25		東貴志コミュニティセンター	S63(1988)	27	10	1	15	不要	10	35	b	
26		貴志川ほたるの館	H2(1990)	25	10	1	15	不要	10	35	b	
27		青少年センター	H8(1996)	19	15	2	15	不要	10	40	a	
特記事項		○1：図書館を併設。 ※1：主施設の評価結果を記載。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

図表 社会教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	利用者1人当たりのコスト総額	利用者1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超30点以下 【D】15点以下	

施設の需要

史跡紀伊国分寺跡歴史公園は平成23年度以降増加傾向で推移していますが、粉河地区公民館や丸栖コミュニティセンターは減少傾向で推移しています。

なお、利用者データが3ヶ年分確認出来無い施設については、一律評価点5点としました。

図表 社会教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要			評価点	将来の需要	
			実績値				予測値	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	古和田教育集会所	-	-	-	5	-	-
2		東国分教育集会所	-	-	-	5	-	-
3		東大井教育集会所	-	-	-	5	-	-
4		打田生涯学習センター	5.1	▲ 19.2	▲ 17.8	10	-	-
5		歴史民俗資料館	14.2	▲ 9.5	3.3	20	-	-
6		史跡紀伊国分寺跡歴史公園	72.0	14.5	49.2	30	-	-
7		西井阪教育集会所（井阪文化会館内）	-	-	-	5	-	-
8	粉河	粉河地区公民館（粉河ふるさとセンター内）	▲ 15.1	▲ 5.6	▲ 24.7	5	-	-
9		旧南丘家住宅	-	-	-	5	-	-
10		粉河地区公民館 川原分館	-	547.5	-	5	-	-
11	那賀	那賀地区公民館 麻生津分館	-	-	-	5	-	-
12		那賀地区公民館 名手分館	-	-	-	5	-	-
13		西元町教育集会所	-	-	-	5	-	-
14		子ども会館	-	-	-	5	-	-
15		那賀総合センター	-	-	-	5	-	-
16		青洲の里春林軒	-	-	-	5	-	-
17		旧名手本陣妹背家住宅・旧名手宿本陣	▲ 29.6	59.1	10.8	20	-	-
18		那賀地区公民館 上名手分館	-	-	-	5	-	-
19		那賀地区公民館 王子分館	-	-	-	5	-	-
20	桃山	桃山会館	▲ 5.9	19.0	10.7	20	-	-
21	貴志川	貴志川地区公民館（貴志川生涯学習センター内）	▲ 7.9	12.8	3.7	20	-	-
22		西貴志コミュニティセンター	6.8	▲ 15.0	▲ 10.1	10	-	-
23		丸栖コミュニティセンター	▲ 7.4	▲ 16.2	▲ 29.0	5	-	-
24		中貴志コミュニティセンター	▲ 20.0	125.8	44.7	20	-	-
25		東貴志コミュニティセンター	5.8	▲ 30.9	▲ 36.9	10	-	-
26		貴志川ほたるの館	-	-	-	5	-	-
27		青少年センター	-	-	-	5	-	-
全 体								

- : データ無し

経費の多寡

利用者一人あたりのコストは、13 円/人～1,905 円/人と差が大きく、一概には言えませんが利用者の少ない施設で一人あたりのコストが高くなっています。

また、利用者データの無い施設については、評価点は一律 10 点としました。

図表 社会教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	利用者数 人	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持管理費	運営経費	人件費	総額	総額	平均額との差	評価点
					万円	万円	万円	万円	円/人	%	
1	打田	古和田教育集会所	210	-	4	3	0	6	-	-	10
2		東国分教育集会所	340	-	8	3	0	10	-	-	10
3		東大井教育集会所	311	-	24	3	0	27	-	-	10
4		打田生涯学習センター	2,713	38,990	1,520	29	0	1,549	397	▲ 19	30
5		歴史民俗資料館	923	3,712	241	45	132	418	1,127	130	5
6		史跡紀伊国分寺跡歴史公園	199	10,940	145	23	36	205	187	▲ 62	30
7		西井阪教育集会所（井阪文化会館内）	341	-	0	0	0	0	-	-	10
8	粉河	粉河地区公民館（粉河ふるさとセンター内）	1,814	21,210	5	23	0	28	13	▲ 97	30
9		旧南丘家住宅	148	228	21	4	0	25	1,083	121	5
10		粉河地区公民館 川原分館	425	-	-	-	-	-	-	-	10
11	那賀	那賀地区公民館 麻生津分館	521	-	43	49	0	92	-	-	10
12		那賀地区公民館 名手分館	293	-	28	49	0	76	-	-	10
13		西元町教育集会所	196	-	24	0	0	24	-	-	10
14		子ども会館	302	-	0	0	0	0	-	-	10
15		那賀総合センター	1,426	-	428	21	0	449	-	-	10
16		青洲の里春林軒	503	13,104	-	-	-	-	-	-	10
17		旧名手本陣味背家住宅・旧名手宿本陣	401	2,474	300	32	140	471	1,905	288	5
18		那賀地区公民館 上名手分館	573	-	92	48	0	140	-	-	10
19		那賀地区公民館 王子分館	210	-	53	48	0	101	-	-	10
20	桃山	桃山会館	1,426	16,653	190	70	0	259	156	▲ 68	30
21	貴志川	貴志川地区公民館（貴志川生涯学習センター内）	3,078	11,200	0	0	0	0	0	▲ 100	30
22		西貴志コミュニティセンター	1,769	14,556	960	19	264	1,243	854	74	5
23		丸瀬コミュニティセンター	998	15,050	248	28	264	540	359	▲ 27	30
24		中貴志コミュニティセンター	1,369	15,008	256	30	264	549	366	▲ 25	30
25		東貴志コミュニティセンター	949	14,150	226	27	264	517	366	▲ 25	30
26		貴志川ほたるの館	110	-	44	0	0	44	-	-	10
27		青少年センター	239	-	80	54	1,788	1,923	-	-	10
全 体			21,785	177,275	4,938	607	3,152	8,698	491		

—：データ無し

「施設機能（サービス面）」の評価結果

利用者の少ない施設では、利用者一人あたりのコストも高くなる傾向が見られるため、総じてCランクの施設が多く、利用者の多い施設では現在の需要、経費の多寡についても評価が高くAランクの施設が多くなっています。

なお、利用者データ等サービス面の評価データの無い施設については、Dランクとなっています。

図表 社会教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	古和田教育集会所	5	-	-	10	15	D
2		東国分教育集会所	5	-	-	10	15	D
3		東大井教育集会所	5	-	-	10	15	D
4		打田生涯学習センター	10	-	-	30	40	B
5		歴史民俗資料館	20	-	-	5	25	C
6		史跡紀伊国分寺跡歴史公園	30	-	-	30	60	A
7		西井阪教育集会所（井阪文化会館内）	5	-	-	10	15	D
8	粉河	粉河地区公民館（粉河ふるさとセンター内）	5	-	-	30	35	B
9		旧南丘家住宅	5	-	-	5	10	D
10		粉河地区公民館 川原分館	5	-	-	10	15	D
11	那賀	那賀地区公民館 麻生津分館	5	-	-	10	15	D
12		那賀地区公民館 名手分館	5	-	-	10	15	D
13		西元町教育集会所	5	-	-	10	15	D
14		子ども会館	5	-	-	10	15	D
15		那賀総合センター	5	-	-	10	15	D
16		青洲の里春林軒	5	-	-	10	15	D
17		旧名手本陣味背家住宅・旧名手宿本陣	20	-	-	5	25	C
18		那賀地区公民館 上名手分館	5	-	-	10	15	D
19		那賀地区公民館 王子分館	5	-	-	10	15	D
20	桃山	桃山会館	20	-	-	30	50	A
21	貴志川	貴志川地区公民館（貴志川生涯学習センター内）	20	-	-	30	50	A
22		西貴志コミュニティセンター	10	-	-	5	15	D
23		丸栖コミュニティセンター	5	-	-	30	35	B
24		中貴志コミュニティセンター	20	-	-	30	50	A
25		東貴志コミュニティセンター	10	-	-	30	40	B
26		貴志川ほたるの館	5	-	-	10	15	D
27		青少年センター	5	-	-	10	15	D

-：データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能がcランクで施設機能がDランクの施設が多いため、区分4に分類された施設が大半を占めています。

図表 社会教育施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	小分類	評価ランク		分析結果
				建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	古和田教育集会所	集会所等	c	D	区分4
2	打田	東国分教育集会所	集会所等	c	D	区分4
3	打田	東大井教育集会所	集会所等	a	D	区分2
4	打田	打田生涯学習センター	公民館等	b	B	区分1
5	打田	歴史民俗資料館	文化財施設等	a	C	区分2
6	打田	史跡紀伊国分寺跡歴史公園	文化財施設等	c	A	区分3
7	打田	西井阪教育集会所（井阪文化会館内）	集会所等	c	D	区分4
8	粉河	粉河地区公民館 （粉河ふるさとセンター内）	公民館等	c	B	区分3
9	粉河	旧南丘家住宅	文化財施設等	c	D	区分4
10	粉河	粉河地区公民館 川原分館	公民館分館・コミュニティセンター	d	D	区分4
11	那賀	那賀地区公民館 麻生津分館	公民館分館・コミュニティセンター	d	D	区分4
12	那賀	那賀地区公民館 名手分館	公民館分館・コミュニティセンター	c	D	区分4
13	那賀	西元町教育集会所	集会所等	c	D	区分4
14	那賀	子ども会館	青少年施設等	c	D	区分4
15	那賀	那賀総合センター	公民館等	c	D	区分4
16	那賀	青洲の里春林軒	文化財施設等	b	D	区分2
17	那賀	旧名手本陣味背家住宅・旧名手宿本陣	文化財施設等	c	C	区分4
18	那賀	那賀地区公民館 上名手分館	公民館分館・コミュニティセンター	d	D	区分4
19	那賀	那賀地区公民館 王子分館	公民館分館・コミュニティセンター	c	D	区分4
20	桃山	桃山会館	公民館等	b	A	区分1
21	貴志川	貴志川地区公民館 （貴志川生涯学習センター内）	公民館等	c	A	区分3
22	貴志川	西貴志コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	a	D	区分2
23	貴志川	丸瀬コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	b	B	区分1
24	貴志川	中貴志コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	c	A	区分3
25	貴志川	東貴志コミュニティセンター	公民館分館・コミュニティセンター	b	B	区分1
26	貴志川	貴志川ほたるの館	文化財施設等	b	D	区分2
27	貴志川	青少年センター	青少年施設等	a	D	区分2

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3 史跡紀伊国分寺跡歴史公園 貴志川地区公民館 (貴志川生涯学習センター内) 中貴志コミュニティセンター	桃山会館	区分1	
	B	区分3 粉河地区公民館 (粉河ふるさとセンター内)	打田生涯学習センター 丸穂コミュニティセンター 東貴志コミュニティセンター	区分1	
	C	区分4 旧名手本陣妹背家住宅・ 旧名手宿本陣	歴史民俗資料館	区分2	
	D	区分4 粉河地区公民館川原分館 那賀地区公民館麻生津分館 那賀地区公民館上名手分館	古和田教育集会所 東国分教育集会所 西井阪教育集会所 (井阪文化会館内) 旧南丘家住宅 那賀地区公民館名手分館 西元町教育集会所 子ども会館 那賀総合センター 那賀地区公民館王子分館	青洲の里春林軒 貴志川ほたるの館	東大井教育集会所 西貴志コミュニティセンター 青少年センター
		d	c	b	a
		ハード面			

※ 斜体は他の施設内に設置されている施設

3 学校教育施設

3-1 小学校

(1) 施設概要

本市は現在、休校中の3施設を除き小学校16施設を有しています。地域別では打田地域2施設、粉河地域5施設、那賀地域3施設、桃山地域2施設、貴志川地域4施設が立地しています。また学童保育施設を併設する小学校も2施設あります。

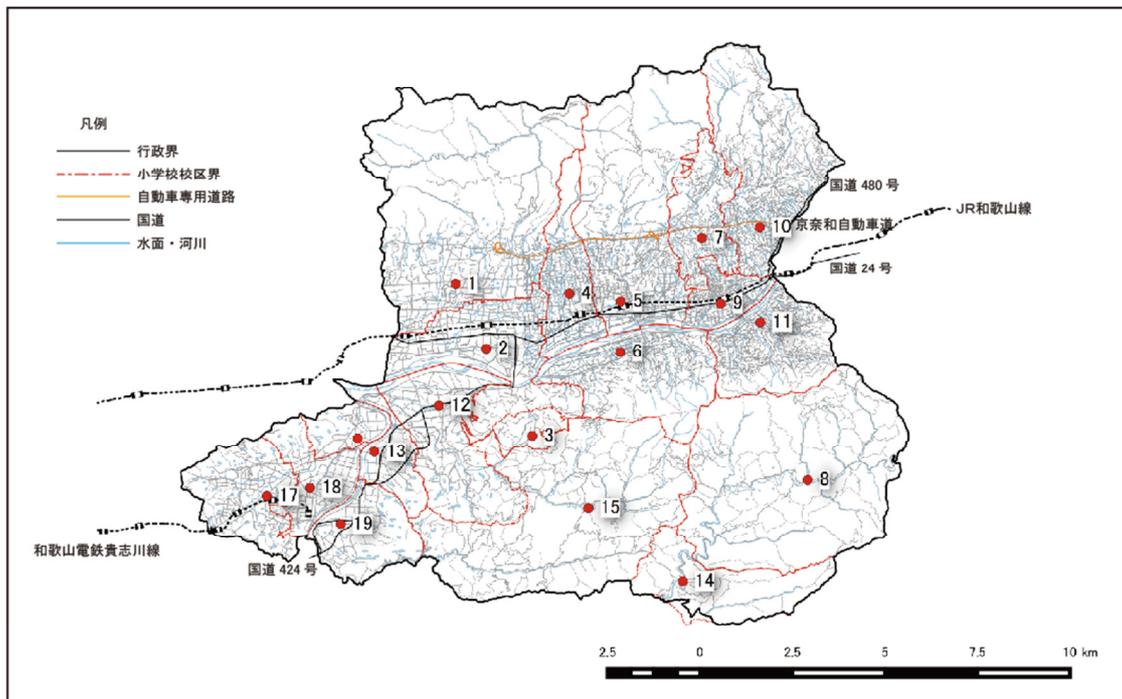
図表 小学校の概要

地域	No	施設名	開設年	延床面積(m ²)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	池田小学校	1933	5,726	校舎等	RC	1973	実施済	実施済		直営
	2	田中小学校	1895	6,039	校舎等	RC	1973	実施済	実施済		直営
	3	田中小学校高野分校	1916	863	校舎等	RC	1984	不要	-	※	直営
粉河	4	長田小学校	1891	2,795	校舎等	RC	1979	実施済	実施済		直営
					校舎等	RC	1958	実施済	実施済		
	5	粉河小学校	1871	5,611	校舎等	RC	1962	実施済	実施済		直営
	6	竜門小学校	1913	3,008	校舎等	RC	1956	実施済	未実施		直営
					体育館等	S	1982	実施済	実施済		
	7	川原小学校	1878	2,842	校舎等	RC	1978	実施済	実施済		直営
					校舎等	RC	1959	実施済	実施済		
8	鞆淵小学校	1892	2,530	校舎等	RC	1978	実施済	実施済		直営	
那賀	9	名手小学校	1958	5,633	校舎等	RC	2010	不要	-	○1	直営
					体育館等	RC	1986	不要	-		
	10	上名手小学校	1905	2,499	校舎等	RC	1981	実施済	実施済		直営
					校舎等	RC	1964	実施済	実施済		
11	麻生津小学校	1873	2,232	校舎等	RC	1994	不要	-		直営	
				校舎等	RC	1966	実施済	実施済			
桃山	12	安楽川小学校	1873	5,592	校舎等	RC	2009	不要	-		直営
					体育館等	RC	1979	実施済	実施済		
	13	調月小学校	1876	2,378	校舎等	RC	1958	実施済	実施済		直営
					体育館等	S	1982	実施済	不要		
14	細野小学校	1879	958	校舎等	S	1981	未実施	未実施	※	直営	
15	桃山小学校	1917	2,018	校舎等	RC	1976	実施済	未実施	※	直営	
貴志川	16	丸栖小学校	1875	3,671	校舎等	RC	1973	実施済	実施済		直営
	17	西貴志小学校	1875	5,878	校舎等	RC	1976	実施済	実施済		直営
					体育館等	RC	1993	不要	-		
	18	中貴志小学校	1873	5,714	校舎等	RC	1998	不要	-		直営
校舎等					RC	1973	実施済	実施済			
19	東貴志小学校	1873	3,292	校舎等	RC	1977	実施済	実施済	○1	直営	

○1：学童保育施設を併設。

※「3 田中小学校高野分校」「14 細野小学校」「15 桃山小学校」は現在休校中。

図表 小学校の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

安楽川小学校など一部を除き、ほとんどの小学校が経過年数 30 年以上経過しています。経過年数の大きな施設が多いため、劣化が進んでいる施設が多いようですが、耐震補強については、ほとんどの施設で不要となっています。

経過年数が大きいことと劣化が見られる事から、評価は b ランクと c ランクが主体となっています。

図表 小学校の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過年数	評価点	劣化状況	評価点	耐震補強	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
1	打田	池田小学校	S48(1973)	42	0	3	10	不要	10	20	c	
2	打田	田中小学校	S48(1973)	42	0	3	10	不要	10	20	c	
3	打田	田中小学校高野分校	S59(1984)	31	5	2	15	不要	10	30	b	※2
4	粉河	長田小学校	S54(1979)	36	5	1	15	不要	10	30	b	
5	粉河	粉河小学校	S37(1962)	53	0	5	5	不要	10	15	c	
6	粉河	竜門小学校	H27(2015)	0	20	0	20	不要	10	50	a	※1
7	粉河	川原小学校	S53(1978)	37	5	5	5	不要	10	20	c	
8	粉河	鞆淵小学校	S53(1978)	37	5	5	5	不要	10	20	c	
9	那賀	名手小学校	H22(2010)	5	20	2	15	不要	10	45	a	○1
10	那賀	上名手小学校	S56(1981)	34	5	3	10	不要	10	25	c	
11	那賀	麻生津小学校	H6(1994)	21	10	2	15	不要	10	35	b	
12	桃山	安楽川小学校	H21(2009)	6	20	4	5	不要	10	35	b	
13	桃山	調月小学校	S33(1958)	57	0	5	5	不要	10	15	c	
14	桃山	細野小学校	S56(1981)	34	5	4	5	必要	0	10	d	※2
15	桃山	桃山小学校	S51(1976)	39	5	4	5	必要	0	10	d	※2
16	貴志川	丸栖小学校	S48(1973)	42	0	5	5	不要	10	15	c	
17	貴志川	西貴志小学校	S51(1976)	39	5	5	5	不要	10	20	c	
18	貴志川	中貴志小学校	H10(1998)	17	15	5	5	不要	10	30	b	
19	貴志川	東貴志小学校	S52(1977)	38	5	5	5	不要	10	20	c	○1
特記事項		○1：学童保育施設を併設。 ※1 「6 竜門小学校」は平成 27 年度に改築。 ※2 「3 田中小学校高野分校」、「14 細野小学校」、「15 桃山小学校」は現在休校中。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価項目の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の需要（児童数）及び将来の小学校区内の児童（6～11歳）人口に基づく「施設の需要」、児童1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」、及び「施設の配置」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 小学校の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (20点満点)	児童数	平成23年～25年における児童数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 20点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 15点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
将来の需要 (20点満点)	各小学校校区内の 6～11歳人口	各小学校校区内の6～11歳人口について、平成25年1月1日現在の実績値に対し、約25年後の平成52(2040)年における推計値の比率を4段階で評価。 20点: 対平成25年比が75以上 15点: 対平成25年比が50以上75未満 10点: 対平成25年比が25以上50未満 5点: 対平成25年比が25未満
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (20点満点)	児童1人当たりの コスト総額	児童1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 20点: 児童1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 15点: 児童1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 児童1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 児童1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 施設の配置(20点満点) 施設の配置に関しては、現状適正に配置されているものとして、一律評価点20点を付与		
②-4 評価結果のまとめ		
評価ランク (80点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】60点(80点×75%)超 【B】40点(80点×50%)超60点以下 【C】20点(80点×25%)超40点以下 【D】20点以下	

施設の需要

ほとんどの小学校で児童数は減少傾向ですが、田中小学校のみ増加傾向となっています。将来の需要は、ほとんどの施設で平成 52 年（2040 年）には児童数は半減すると考えられます。

なお、田中小学校高野分校と細野小学校、桃山小学校は休校中のため、評価点は一律 5 点と設定しました。

図表 小学校の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	児童数 (人)	現在の需要（児童数の推移）			将来の需要		
				実績値（%）			評価点	H52/H25	評価点
				H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	池田小学校	363	1.1	▲ 0.3	0.8	15	52	15
2	打田	田中小学校	474	3.9	2.5	6.1	20	49	10
3	打田	田中小学校高野分校 ※	—	—	—	—	5	—	5
4	粉河	長田小学校	133	▲ 7.7	▲ 3.8	▲ 12.7	5	48	10
5	粉河	粉河小学校	303	▲ 10.5	▲ 5.7	▲ 18.6	5	46	10
6	粉河	竜門小学校	86	▲ 15.8	5.0	▲ 13.1	10	56	15
7	粉河	川原小学校	86	▲ 4.4	▲ 8.0	▲ 13.8	5	46	10
8	粉河	鞆淵小学校	18	0.0	▲ 21.1	▲ 26.7	10	45	10
9	那賀	名手小学校	214	0.9	▲ 2.3	▲ 1.4	10	55	15
10	那賀	上名手小学校	58	▲ 1.7	▲ 1.7	▲ 3.5	5	56	15
11	那賀	麻生津小学校	96	▲ 7.6	▲ 10.3	▲ 20.7	5	34	10
12	桃山	安楽川小学校	275	▲ 5.5	▲ 7.2	▲ 14.1	5	47	10
13	桃山	調月小学校	94	▲ 2.1	2.2	0.0	15	52	15
14	桃山	細野小学校 ※	—	—	—	—	5	—	5
15	桃山	桃山小学校 ※	—	—	—	—	5	—	5
16	貴志川	丸栖小学校	171	▲ 6.0	▲ 7.0	▲ 14.5	5	50	10
17	貴志川	西貴志小学校	432	▲ 3.6	▲ 1.6	▲ 5.5	5	47	10
18	貴志川	中貴志小学校	391	▲ 5.1	▲ 6.4	▲ 12.5	5	49	10
19	貴志川	東貴志小学校	188	▲ 5.5	▲ 5.9	▲ 12.4	5	44	10
施設全体			3,382	▲ 3.6	3,382	▲ 7.2		49	

—：データ無し

※現在休校中の施設

経費の多寡

概ねの傾向として、児童数の少ない小学校ほど児童一人あたりのコストは高くなっています。

なお、田中小学校高野分校と細野小学校、桃山小学校は休校中のため、評価点は一律5点と設定しました。

図表 小学校の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	児童数 人	維持管理・運営コスト					児童一人あたりのコスト 総額 千円/人	平均額との差 %	評価点 点
					維持管理費		運営経費	人件費	総額			
					千円	円/㎡	千円	千円	千円			
1	打田	池田小学校	5,726	363	9,110	15,909	10,170	5,328	24,608	68	▲ 22	20
2	打田	田中小学校	6,039	474	8,572	14,195	11,405	6,346	26,324	56	▲ 36	20
3	打田	田中小学校 高野分校 ※	863	—	103	1,190	0	0	103	—	—	5
4	粉河	長田小学校	2,795	133	3,908	13,982	6,224	3,215	13,347	100	16	5
5	粉河	粉河小学校	5,611	303	13,914	24,798	8,991	4,763	27,669	91	6	10
6	粉河	竜門小学校	3,008	86	3,184	10,584	5,565	2,789	11,537	134	55	5
7	粉河	川原小学校	2,842	86	4,102	14,434	5,702	2,787	12,591	146	69	5
8	粉河	鞆淵小学校	2,530	18	3,000	11,857	4,031	2,163	9,194	520	502	5
9	那賀	名手小学校	5,633	214	5,866	10,414	7,670	3,957	17,494	82	▲ 5	15
10	那賀	上名手小学校	2,499	58	3,678	14,718	5,172	2,532	11,383	196	127	5
11	那賀	麻生津小学校	2,232	96	6,018	26,963	5,673	2,880	14,571	151	75	5
12	桃山	安楽川小学校	5,592	275	9,135	16,337	11,852	4,508	25,496	93	7	10
13	桃山	調月小学校	2,378	94	5,438	22,867	9,127	2,865	17,430	185	114	5
14	桃山	細野小学校 ※	958	—	162	1,691	0	0	162	—	—	5
15	桃山	桃山小学校 ※	2,018	—	339	1,681	40	0	379	—	—	5
16	貴志川	丸栖小学校	3,671	171	6,757	18,407	6,943	3,559	17,259	101	17	5
17	貴志川	西貴志小学校	5,878	432	7,237	12,312	10,863	5,950	24,051	56	▲ 36	20
18	貴志川	中貴志小学校	5,714	391	6,917	12,105	10,079	5,568	22,564	58	▲ 33	20
19	貴志川	東貴志小学校	3,292	188	5,245	15,934	7,103	3,718	16,066	85	▲ 1	15
施設全体			69,279	3,382	102,685	14,822	126,613	62,929	292,226	86		

—：データ無し

※現在休校中の施設

施設の配置

施設の配置に関しては、現状小学校区ごとに適正に配置されているものとして、一律評価点 20 点を付与しました。

「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要と経費の多寡に関する評価点の相違により、ランク A からランク C まで、各施設のランクに差が表れています。

図表 小学校の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	池田小学校	15	15	20	20	70	A
2	打田	田中小学校	20	10	20	20	70	A
3	打田	田中小学校高野分校 ※	5	5	20	5	35	C
4	粉河	長田小学校	5	10	20	5	40	C
5	粉河	粉河小学校	5	10	20	10	45	B
6	粉河	竜門小学校	10	15	20	5	50	B
7	粉河	川原小学校	5	10	20	5	40	C
8	粉河	鞆淵小学校	10	10	20	5	45	B
9	那賀	名手小学校	10	15	20	15	60	B
10	那賀	上名手小学校	5	15	20	5	45	B
11	那賀	麻生津小学校	5	10	20	5	40	C
12	桃山	安楽川小学校	5	10	20	10	45	B
13	桃山	調月小学校	15	15	20	5	55	B
14	桃山	細野小学校 ※	5	5	20	5	35	C
15	桃山	桃山小学校 ※	5	5	20	5	35	C
16	貴志川	丸栖小学校	5	10	20	5	40	B
17	貴志川	西貴志小学校	5	10	20	20	55	B
18	貴志川	中貴志小学校	5	10	20	20	55	B
19	貴志川	東貴志小学校	5	10	20	15	50	B

※現在休校中の施設

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

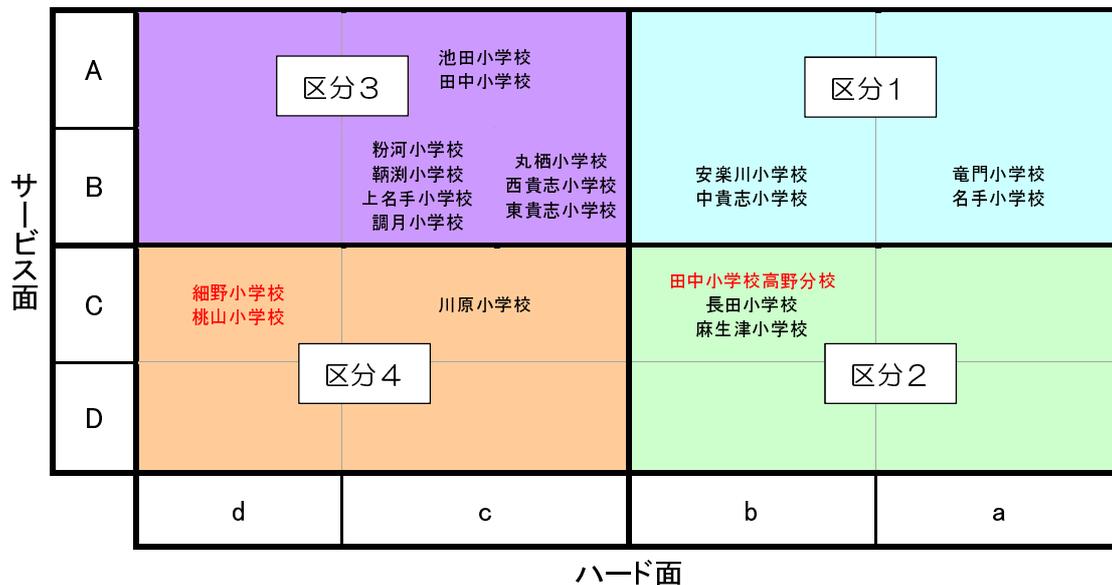
建物性能では、多くの施設で建物機能がb、cランク、施設機能ではBランクに集中しているため、「区分2」、「区分3」の施設が主体となっています。なお、「区分4」となっているのは、現在休校中の細野小学校と桃山小学校となっています。

図表 小学校の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	池田小学校	c	A	区分3
2	打田	田中小学校	c	A	区分3
3	打田	田中小学校高野分校	b	C	区分2
4	粉河	長田小学校	b	C	区分2
5	粉河	粉河小学校	c	B	区分3
6	粉河	竜門小学校	a	B	区分1
7	粉河	川原小学校	c	C	区分4
8	粉河	鞆淵小学校	c	B	区分3
9	那賀	名手小学校	a	B	区分1
10	那賀	上名手小学校	c	B	区分3
11	那賀	麻生津小学校	b	C	区分2
12	桃山	安楽川小学校	b	B	区分1
13	桃山	調月小学校	c	B	区分3
14	桃山	細野小学校	d	C	区分4
15	桃山	桃山小学校	d	C	区分4
16	貴志川	丸栖小学校	c	B	区分3
17	貴志川	西貴志小学校	c	B	区分3
18	貴志川	中貴志小学校	b	B	区分1
19	貴志川	東貴志小学校	c	B	区分3

※赤字：現在休校中の施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設



※赤字：現在休校中の施設

3-2 中学校

(1) 施設概要

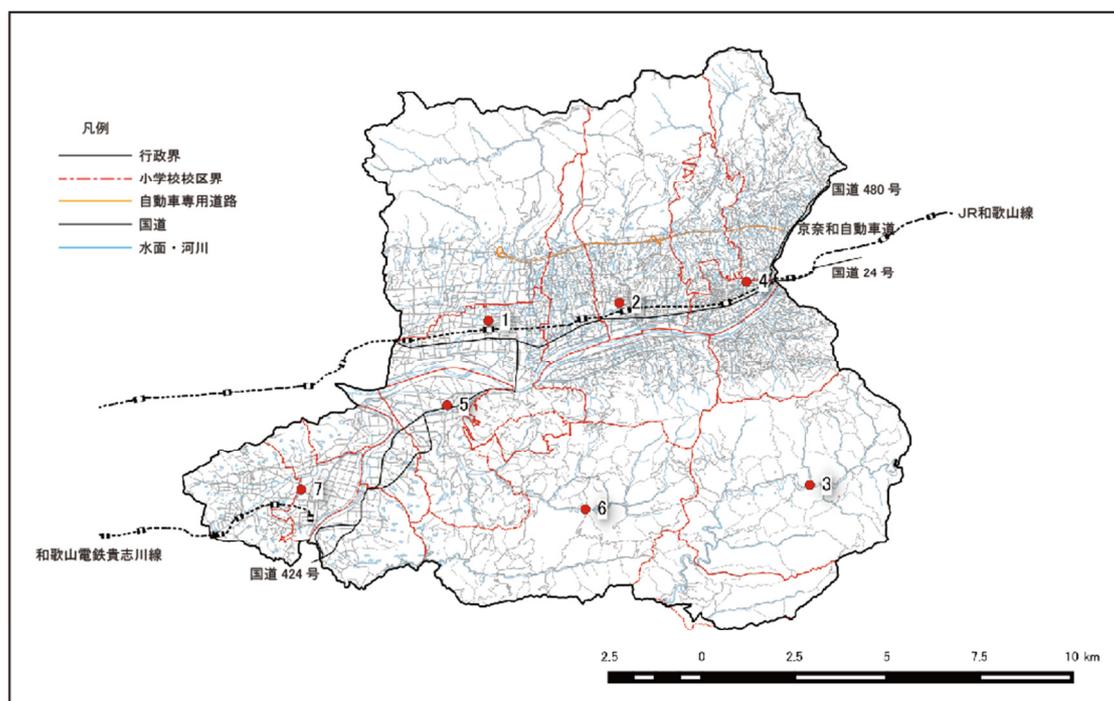
本市は現在、休校中の1施設を除き中学校6施設を有しています。地域別では粉河地域に2施設が立地しているほか、各地域に1施設ずつ立地しています。

図表 中学校の概要

地域	No	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	打田中学校	1961	9,383	校舎等	RC	2012	不要	-		直営
					武道場	S	1981	実施済	実施済		
粉河	2	粉河中学校	1947	8,902	校舎等	RC	2013	不要	-		直営
	3	韮渕中学校	1947	1,713	校舎等	RC	1978	実施済	未実施		直営
那賀	4	那賀中学校	1965	6,258	校舎等	RC	1966	実施済	実施済		直営
桃山	5	荒川中学校	1947	5,060	校舎等	RC	1970	実施済	実施済		直営
					体育館等	RC	1995	不要	-		
	6	桃山中学校	1947	2,375	校舎等	RC	1972	未実施	未実施	※	直営
貴志川	7	貴志川中学校	1947	10,850	校舎等	RC	2006	不要	-		直営
					校舎等	RC	1978	実施済	実施済		

※「6 桃山中学校」は現在休校中。

図表 中学校の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

施設の約半数は最近建築(改築)されているので評価ランクはaまたはbとなっていますが、残りは地区30年以上でdランクとなっており、施設間の差が明確になっています。

図表 中学校の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過	評価点	劣化	評価点	耐震	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
				年数		状況		補強				
1	打田	打田中学校	H24 (2012)	2	20	0	20	不要	10	50	a	
2	粉河	粉河中学校	H25 (2013)	1	20	0	20	不要	10	50	a	
3	粉河	鞆淵中学校	S53 (1978)	36	5	5	5	不要	10	25	c	※1
4	那賀	那賀中学校	S41 (1966)	48	0	5	5	必要	0	20	c	
5	桃山	荒川中学校	S45 (1970)	44	0	6	5	必要	0	20	c	
6	桃山	桃山中学校	S47 (1972)	42	0	4	5	必要	0	10	d	※2
7	貴志川	貴志川中学校	H18 (2006)	8	20	6	5	不要	10	35	b	
特記事項		※1「3 鞆淵中学校」は平成27年7月に耐震化工事実施予定ため、耐震化適合とした。 ※2「6 桃山中学校」は現在休校中。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価項目の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の需要（生徒数）及び将来の小学校区内の生徒（12～14 歳）人口に基づく「施設の需要」、生徒1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」、及び「施設の配置」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 中学校の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (20点満点)	生徒数	平成23年～25年における生徒数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 20点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 15点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
将来の需要 (20点満点)	各中学校校区内の 12～14歳人口	各中学校校区内の12～14歳人口について、平成25年1月1日現在の実績値に対し、約25年後の平成52(2040)年における推計値の比率を4段階で評価。 20点: 対平成25年比が75以上 15点: 対平成25年比が50以上75未満 10点: 対平成25年比が25以上50未満 5点: 対平成25年比が25未満
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (20点満点)	生徒1人当たりの コスト総額	生徒1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 20点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 15点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額～+10%未満 5点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額の+10%以上
②-3 施設の配置(20点満点) 施設の配置に関しては、現状適正に配置されているものとして、一律評価点20点を付与		
②-4 評価結果のまとめ		
評価ランク (80点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】60点(80点×75%)超 【B】40点(80点×50%)超60点以下 【C】20点(80点×25%)超40点以下 【D】20点以下	

施設の需要

ほとんどの施設で生徒数は減少傾向で、将来の需要に関して平成 52 年（2040 年）には生徒数は半減すると考えられます。

図表 中学校の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の需要	
			実績値（%）			評価点	H52/H25	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	打田中学校	▲ 4.9	▲ 2.8	▲ 8.2	5	52	15
2	粉河	粉河中学校	▲ 6.3	▲ 13.5	▲ 23.4	5	38	10
3	粉河	鞆渚中学校	14.3	▲ 6.3	6.7	15	60	15
4	那賀	那賀中学校	▲ 7.4	▲ 7.5	▲ 16.8	5	49	10
5	桃山	荒川中学校	▲ 7.1	3.8	▲ 3.7	10	40	10
6	桃山	桃山中学校 ※	—	—	—	5	—	5
7	貴志川	貴志川中学校	▲ 4.3	3.7	▲ 0.8	10	44	10
施設全体			▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 8.9		44	

—：データ無し

※現在休校中の施設

経費の多寡

概ねの傾向として、築年数の古い施設ほど生徒一人あたりのコスト総額が高くなっています。

図表 中学校の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	生徒数 人	維持管理・運営コスト				生徒一人あたりの コスト 総額 千円/人	平均額 との差 %	評価 点	
					維持管理費		運営 経費 千円	人件費 千円				総額 千円
					千円	円/㎡						
1	打田	打田中学校	9,383	393	9,457	10,080	15,446	3,476	28,380	72	▲ 11	20
2	粉河	粉河中学校	8,902	406	5,947	6,680	13,734	3,476	23,156	57	▲ 29	20
3	粉河	鞆渚中学校	1,713	15	1,459	8,518	5,988	0	7,447	496	514	5
4	那賀	那賀中学校	6,258	200	15,017	23,995	10,215	3,476	28,708	143	77	5
5	桃山	荒川中学校	5,060	218	7,286	14,398	14,506	3,476	25,267	116	43	5
6	桃山	桃山中学校 ※	2,375	—	407	1,713	40	0	447	—	—	5
7	貴志川	貴志川中学校	10,850	614	12,413	11,440	19,912	3,476	35,801	58	▲ 28	20
施設全体			44,541	1,846	51,985	11,671	79,841	17,379	149,205	81		

—：データ無し

※現在休校中の施設

《学校教育施設》
《中学校》

施設の配置

施設の配置に関しては、現状小学校区ごとに適正に配置されているものとして、一律評価点 20 点を付与しました。

「施設機能（サービス面）」の評価結果

将来の需要に関する評価では、施設間で大きな差はありませんが、経費の多寡に関する評価の差が大きくなっています。

図表 中学校の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	打田中学校	5	15	20	20	60	B
2	粉河	粉河中学校	5	10	20	20	55	B
3	粉河	鞆渕中学校	15	15	20	5	55	B
4	那賀	那賀中学校	5	10	20	5	40	C
5	桃山	荒川中学校	10	10	20	5	45	B
6	桃山	桃山中学校 ※	5	5	20	5	35	C
7	貴志川	貴志川中学校	10	10	20	20	60	B

※現在休校中の施設

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能に関する評価ランクに差がありますが、施設機能に関する評価ランクはAまたはBが主体となっているため、「区分1」と「区分3」に偏っています。

図表 中学校の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

	施設名	評価ランク		分析結果
		(ハード面) 建物性能	(サービス面) 施設機能	
1	打田中学校	a	B	区分1
2	粉河中学校	a	B	区分1
3	鞆渚中学校	c	B	区分3
4	那賀中学校	c	C	区分4
5	荒川中学校	c	B	区分3
6	桃山中学校	d	C	区分4
7	貴志川中学校	b	B	区分1

※赤字：現在休校中の施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3		区分1	
	B	鞆渚中学校 荒川中学校		貴志川中学校	打田中学校 粉河中学校
	C	桃山中学校	那賀中学校		
	D	区分4		区分2	
		d	c	b	a
		ハード面			

※赤字：現在休校中の施設

《学校教育施設》
 《その他教育施設》

3-3 その他教育施設

(1) 施設概要

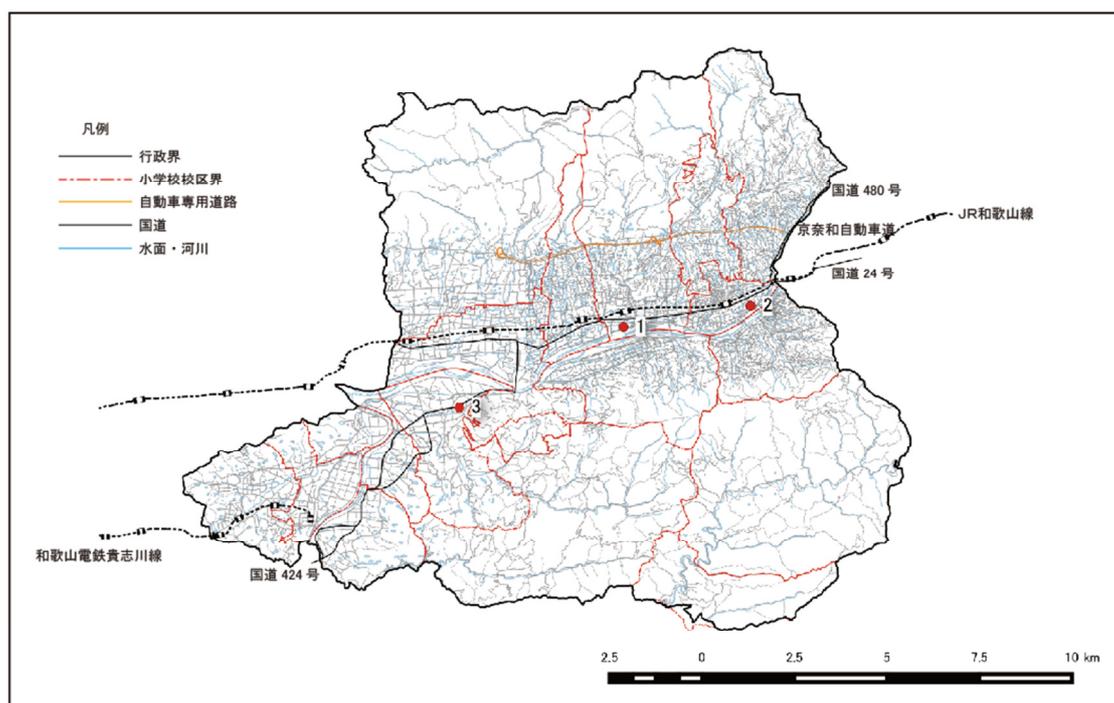
その他教育施設として、本市は学校給食センターを3施設有しています。

学校給食センターは、粉河地域、那賀地域、桃山地域それぞれに立地し、地域の学校施設への給食配給の拠点として稼働しています。

図表 その他教育施設の概要

地域	No	施設名	小分類	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
						名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
粉河	1	粉河学校給食センター	給食センター	2004	1,099	学校給食センター	S	2003	不要	-		直営
那賀	2	那賀学校給食センター	給食センター	2002	522	学校給食センター	S	2002	不要	-		直営
桃山	3	河南学校給食センター	給食センター	2014	2,527	学校給食センター	S	2014	不要	-		直営

図表 その他教育施設の配置状況



(2) 施設評価

① 「建物性能（ハード面）」の評価結果

施設の約半数は最近建築されているので評価ランクはaとなっています。

図表 その他教育施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過年数		劣化状況		耐震補強		評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
				経過年数	評価点	劣化状況	評価点	耐震補強	評価点			
1	粉河	粉河学校給食センター	H15(2003)	12	15	1	15	不要	10	40	a	
2	那賀	那賀学校給食センター	H14(2002)	13	15	0	20	不要	10	45	a	
3	桃山	河南学校給食センター	H26(2014)	1	20	0	20	不要	10	50	a	
特記事項												

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価項目の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の需要（対象となる児童・生徒数）及び将来の小・中学校区内の児童・生徒（6～14歳）人口に基づく「施設の需要」、児童・生徒1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」、及び「施設の配置」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 その他教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (20点満点)	対象小・中学校の児童数・生徒数	平成23年～25年における児童数・生徒数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 20点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 15点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
将来の需要 (20点満点)	対象小・中学校校区内の6～14歳人口	対象小・中学校校区内の12～14歳人口について、平成25年1月1日現在の実績値に対し、約25年後の平成52(2040)年における推計値の比率を4段階で評価。 20点: 対平成25年比が75以上 15点: 対平成25年比が50以上75未満 10点: 対平成25年比が25以上50未満 5点: 対平成25年比が25未満
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (20点満点)	対象児童・生徒1人当たりのコスト総額	対象児童・生徒1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、平均額に対する多寡を4段階で評価。 20点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 15点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額～+10%未満 5点: 生徒1人当たりコスト総額が平均額の+10%以上
②-3 施設の配置(20点満点) 施設の配置に関しては、現状適正に配置されているものとして、一律評価点20点を付与		
②-4 評価結果のまとめ		
評価ランク (80点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】60点(80点×75%)超 【B】40点(80点×50%)超60点以下 【C】20点(80点×25%)超40点以下 【D】20点以下	

施設の需要

全ての施設で児童・生徒数は減少傾向で推移するため、現在の需要に対する評価点は低くなっています。

図表 その他教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要			評価点	将来の需要	
			実績値（%）				H52/H25	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	粉河	粉河学校給食センター	▲ 8.0	▲ 8.2	▲ 18.5	5	29	10
2	那賀	那賀学校給食センター	▲ 3.9	▲ 5.4	▲ 10.0	5	64	15
3	桃山	河南学校給食センター	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 4.5	5	18	5
施設全体			▲ 4.3	▲ 3.1	▲ 7.8		47	

経費の多寡

基本的に、児童・生徒数一人あたりのコストについては、各施設で大きな差は見られず、均一なサービスが提供できています。

なお、河南学校給食センターについては平成 26 年度開設のため、維持管理・運営コストの集計が出来ていませんので、評価点は 10 点と設定しました。

図表 その他教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	生徒数・児童数 人	維持管理・運営コスト				児童・生徒一人あたりのコスト			
					維持管理費		運営経費	人件費	総額	平均額との差 %	評価点	
					千円	円/㎡	千円	千円	千円			千円/人
1	粉河	粉河学校給食センター	1,099	1,047	1,940	58.9	1,061	3,475	6,476	62	1	10
2	那賀	那賀学校給食センター	522	568	514	65.5	211	2,693	3,418	60	▲ 2	15
3	桃山	河南学校給食センター	2,527	3,613	—	—	—	—	—	—	—	10
施設全体※			1,621	1,615	2,454	23.9	1,272	6,168	9,894	61		

—：データ無し

※河南学校給食センターの維持管理・運営コストが不明なため、延べ床面積等の合計値に含まない。

施設の配置

施設の配置に関しては、現状小・中学校区ごとに適正に配置されているものとして、一律評価点 20 点を付与しました。

《学校教育施設》
《その他教育施設》

「施設機能（サービス面）」の評価結果

経費の多寡に関しては、河南学校給食センターを除き差は見られませんが、将来の需要に関して、施設によって評価に差が見られます。

図表 その他教育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点 合計	ランク
1	粉河	粉河学校給食センター	5	10	20	10	45	B
2	那賀	那賀学校給食センター	5	15	20	15	55	B
3	桃山	河南学校給食センター	5	5	20	10	40	C

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

全施設共通で建物性能はaランク、施設機能はbランクのため、区分1に分類されます。

図表 その他教育施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

	施設名	評価ランク		分析結果
		(ハード面) 建物性能	(サービス面) 施設機能	
1	粉河学校給食センター	a	B	区分1
2	那賀学校給食センター	a	B	区分1
3	河南学校給食センター	a	C	区分2

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3		区分1	
	B	区分3		粉河学校給食センター 那賀学校給食センター	
	C	区分4		河南学校給食センター 区分2	
	D	区分4		区分2	
		d	c	b	a
		ハード面			

《子育て支援施設》
 《保育所》

4 子育て支援施設

4-1 保育所

(1) 施設概要

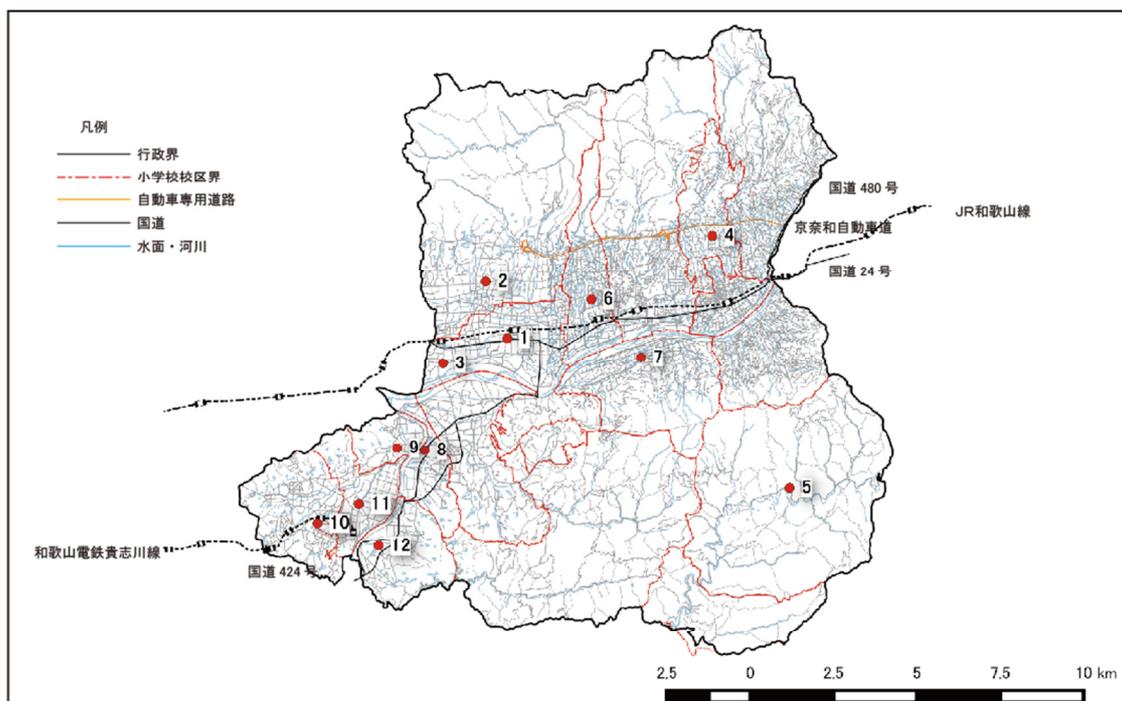
本市は現在、統合済の1施設を除き保育所11施設を有しています。地域別では打田地域3施設、粉河地域及び貴志川地域にそれぞれ4施設が立地しています。

図表 保育所の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	こばと保育所	1951	2,095	保育所	RC	1992	実施済	不要		直営
	2	なるき保育所	1952	1,633	保育所	RC	1982	実施済	不要		直営
	3	八王子保育所	1976	514	保育所	RC	1976	実施済	不要		直営
粉河	4	川原保育所	1961	798	保育所	S	1978	実施済	未実施		直営
	5	鞆淵へき地保育所	1978	461	保育所	S	1985	不要	-		直営
	6	長田保育所	1965	1,020	保育所	S	1980	実施済	未実施		直営
					保育所	S	1965	不要	-		
7	竜門保育所	1963	718	保育所	S	1976	実施済	未実施		直営	
				保育所	S	1963	不要	-			
桃山	8	旧調月保育所	2013	393	保育所	S	1986	不要	-	※1	直営
貴志川	9	丸栖保育所	1980	969	保育所	RC	1980	実施済	不要		直営
	10	西貴志保育所	1981	1,168	保育所	S	1981	実施済	不要		直営
	11	中貴志保育所	1961	1,140	保育所	RC	1985	実施済	不要		直営
	12	東貴志保育所	1978	896	保育所	RC	1978	実施済	不要		直営

※1「8 旧調月保育所」は、現在ファミリーサポートセンターへ無償貸与中。

図表 保育所の配置状況



(2) 施設評価

① 「建物性能（ハード面）」の評価

保育所の多くが1970年代～80年代に建設されており、新耐震基準（昭和56年6月）以前の建物については概ね耐震診断が行われ、安全性を確保した上で利用が図られています。

築年数が30年以上の施設が大半を占め、一部耐震補強の必要な施設等cランクの施設もありますが、ほとんどがbランクとなっています。

図表 保育所の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過年数	評価点	劣化状況	評価点	耐震補強	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
2	打田	なるき保育所	S57(1982)	33	5	1	15	不要	10	30	b	
3	打田	八王子保育所	S51(1976)	39	5	2	15	不要	10	30	b	
4	粉河	川原保育所	S53(1978)	37	5	2	15	必要	0	20	c	
5	粉河	鞆淵へき地保育所	S60(1985)	30	5	2	15	不要	10	30	b	
6	粉河	長田保育所	S55(1980)	35	5	2	15	必要	0	20	c	
7	粉河	竜門保育所	S51(1976)	39	5	0	20	必要	0	25	c	※1
8	桃山	旧調月保育所	S61(1986)	29	10	2	15	不要	10	35	b	※2
9	貴志川	丸栖保育所	S55(1980)	35	5	2	15	不要	10	30	b	
10	貴志川	西貴志保育所	S56(1981)	34	5	0	20	不要	10	35	b	
11	貴志川	中貴志保育所	S60(1985)	30	5	3	10	不要	10	25	c	
12	貴志川	東貴志保育所	S53(1978)	37	5	0	20	不要	10	35	b	
特記事項		※1 「7 竜門保育所」平成31年度に粉河地区保育所の統廃合に伴い、取り壊し予定。 ※2 「8 旧調月保育所」現在ファミリーサポートセンターへ無償貸与中。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の在籍幼児数の増減及び将来の利用圏域内の幼児（0～4歳）人口に基づく「施設の需要」、利用圏域の重複に基づく「施設の配置」、幼児1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 保育所の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (20点満点)	幼児数	平成23年～25年における幼児数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 20点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 15点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
将来の需要 (20点満点)	利用圏域内の 0～4歳人口	各保育所の利用圏域内の0～4歳人口について、平成25年1月1日現在の実績値に対し、約25年後の平成52(2040)年における推計値の比率を4段階で評価。 20点: 対平成25年比が75以上 15点: 対平成25年比が50以上75未満 10点: 対平成25年比が25以上50未満 5点: 対平成25年比が25未満
②-2 施設の配置		
施設の配置 (20点満点)	利用圏域内の重複 施設数	既存の保育所を中心に利用圏域内で重複している保育所の施設数に応じて4段階で評価 20点: 重複無し 15点: 重複施設が1施設 10点: 重複施設が2施設 5点: 重複施設が3施設以上
②-3 経費の多寡		
経費の多寡 (20点満点)	幼児1人当たりの コスト総額	幼児1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 20点: 幼児1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 15点: 幼児1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 幼児1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 幼児1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-4 評価結果のまとめ		
評価ランク (80点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】60点(80点×75%)超 【B】40点(80点×50%)超60点以下 【C】20点(80点×25%)超40点以下 【D】20点以下	

施設の需要

平成 23 年度～25 年度にかけては、在籍幼児数は増減しながらも、概ね増加傾向の施設が主体となっていますので、現在の需要は評価点 15～20 点の施設が多くなっています。

将来の需要については、少子化の影響が大きく多くの施設で幼児数は半数近くに低下するとみられ、評価点は 10～15 点の施設が多くなっています。

なお、旧調月保育所については、現在施設をファミリーサポートへ無償貸与しているため在籍幼児数のデータがありませんので、現在の需要の評価点は 5 点としました。

図表 保育所の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の需要	
			実績値			評価点	予測値	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	こばと保育所	▲ 4.5	3.1	▲ 1.5	10	0.44	10
2		なるき保育所	▲ 3.4	9.3	5.2	15	0.45	10
3		八王子保育所	▲ 25.0	10.0	▲ 21.2	10	0.44	10
4	粉河	川原保育所	5.7	▲ 27.0	▲ 29.6	10	0.66	15
5		鞆淵へき地保育所	▲ 20.0	25.0	0.0	10	0.85	20
6		長田保育所	2.0	0.0	1.9	15	0.72	15
7		竜門保育所	▲ 2.4	2.5	0.0	10	0.80	20
8	桃山	旧調月保育所 ※	-	-	-	5	0.62	15
9	貴志川	丸栖保育所	13.9	▲ 2.2	10.2	15	0.55	15
10		西貴志保育所	6.3	4.7	10.1	20	0.53	15
11		中貴志保育所	▲ 2.2	2.2	0.0	10	0.52	15
12		東貴志保育所	4.4	4.2	8.1	20	0.59	15

- : データ無し

※現在閉鎖中（無償貸与中）の施設

施設の配置

保育所の利用圏域を半径 500mとした場合の重複状況では、旧調月保育所と丸栖保育所が利用圏域のごく一部が重複していますが、他の施設については重複はありません。

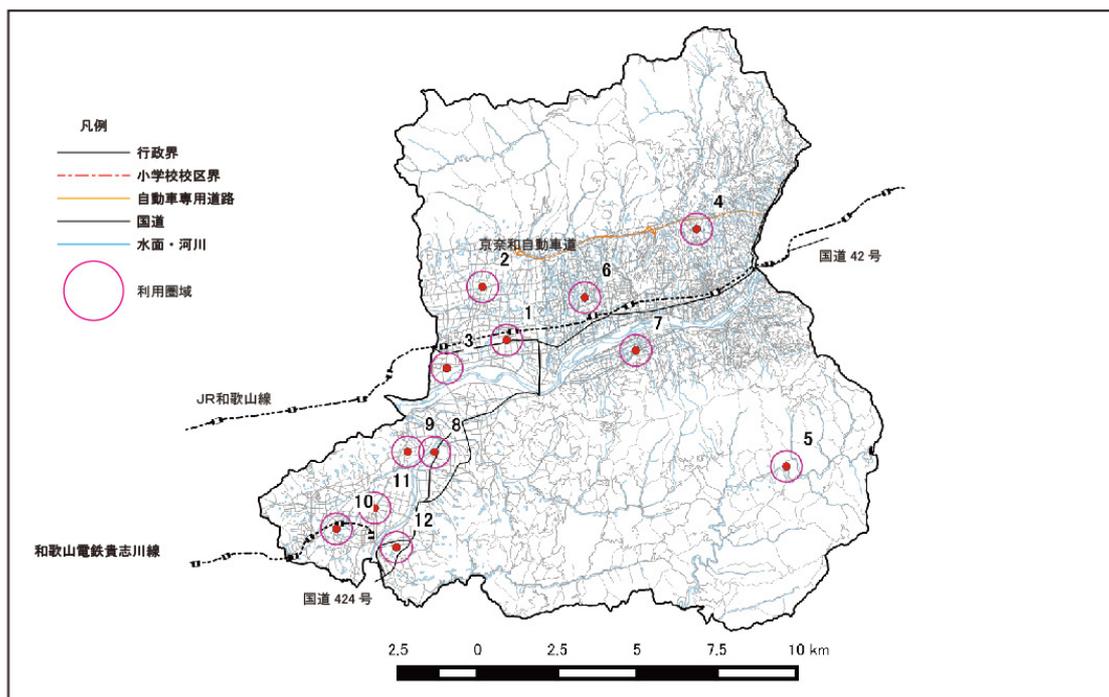
図表 保育所の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の配置）

No	地域	施設名	重複施設	
			No.	評価点
1	打田	こばと保育所	-	20
2		なるき保育所	-	20
3		八王子保育所	-	20
4	粉河	川原保育所	-	20
5		鞆淵へき地保育所	-	20
6		長田保育所	-	20
7		竜門保育所	-	20
8	桃山	旧調月保育所 ※	9	10
9	貴志川	丸栖保育所	8	10
10		西貴志保育所	-	20
11		中貴志保育所	-	20
12		東貴志保育所	-	20

- : データ無し

※現在閉鎖中（無償貸与中）の施設

図表 既存施設を中心に利用圏域を半径 500mとした場合の重複状況（保育所）



経費の多寡

在籍幼児一人あたりのコストは、地域によって差が大きく粉河地域では 1,500 千円/人前後が多いのに対し、貴志川地域では 1,000 千円/人弱が多くなっています。

このため、評価点は 5 点と 20 点に大きく二分されています。

なお、旧調月保育所については、在籍幼児数がゼロのため一人あたりのコスト総額が計算できないことから、評価点は 5 点としました。

図表 保育所の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	在籍者数 人	維持管理・運営コスト				幼児一人あたりのコスト		
					維持管理費 万円	運営経費 万円	人件費 万円	総額 万円	総額 千円/人	平均額との差 %	評価点
1	打田	こばと保育所	2,095	198	890	1,762	14,938	17,590	888	▲ 21.8	20
2		なるき保育所	1,633	146	724	1,326	9,282	11,332	776	▲ 31.7	20
3		八王子保育所	514	34	276	438	5,090	5,804	1,691	48.8	20
4	粉河	川原保育所	798	33	255	451	4,569	5,276	1,599	40.7	5
5		鞆淵へき地保育所	461	5	113	110	1,802	2,025	4,339	282.0	5
6		長田保育所	1,020	52	260	580	6,063	6,904	1,336	17.6	5
7		竜門保育所	718	41	184	487	4,565	5,237	1,288	13.3	5
8	桃山	旧調月保育所 ※	393	-	0	985	0	985	0	-	5
9	貴志川	丸栖保育所	969	86	402	904	7,064	8,370	977	▲ 14.0	20
10		西貴志保育所	1,168	85	844	817	6,151	7,812	923	▲ 18.8	20
11		中貴志保育所	1,140	91	1,383	942	6,540	8,865	971	▲ 14.6	20
12		東貴志保育所	896	95	304	973	7,391	8,668	912	▲ 19.7	20
全体			4,565	357	2,934	4,621	27,145	34,700	1,136		

- : データ無し

※現在閉鎖中（無償貸与中）の施設

「施設機能（サービス面）」の評価結果

施設機能の各評価点は、経費の多寡以外施設間でほとんど差がありませんので、経費の多寡の評価が高い施設はAランク、低い施設はBランクとなっています。

図表 保育所の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	こばと保育所	10	10	20	20	60	B
2		なるき保育所	15	10	20	20	65	A
3		八王子保育所	10	10	20	20	60	B
4	粉河	川原保育所	10	15	20	5	50	B
5		蕨淵へき地保育所	10	20	20	5	55	B
6		長田保育所	15	15	20	5	55	B
7		竜門保育所	10	20	20	5	55	B
8	桃山	旧調月保育所 ※	5	15	10	5	35	C
9	貴志川	丸瀬保育所	15	15	10	20	60	B
10		西貴志保育所	20	15	20	20	75	A
11		中貴志保育所	10	15	20	20	65	A
12		東貴志保育所	20	15	20	20	75	A

※現在閉鎖中（無償貸与中）の施設

《子育て支援施設》
《保育所》

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能がbランク、施設機能がA又はBランクの施設は区分1に、建物性能がcランク、施設機能がA又はBランクの施設は区分3に分類されます。

図表 保育所の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	こばと保育所	b	B	区分1
2	打田	なるき保育所	b	A	区分1
3	打田	八王子保育所	b	B	区分1
4	粉河	川原保育所	c	B	区分3
5	粉河	鞆淵へき地保育所	b	B	区分1
6	粉河	長田保育所	c	B	区分3
7	粉河	竜門保育所	c	B	区分3
8	桃山	旧調月保育所	b	C	区分2
9	貴志川	丸栖保育所	b	B	区分1
10	貴志川	西貴志保育所	b	A	区分1
11	貴志川	中貴志保育所	c	A	区分3
12	貴志川	東貴志保育所	b	A	区分1

※赤字：現在閉鎖中（無償貸与中）の施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	中貴志保育所	なるき保育所 西貴志保育所 東貴志保育所		
	B	区分3 川原保育所 長田保育所 竜門保育所	こばと保育所 八王子保育所 鞆淵へき地保育所 丸栖保育所	区分1	
	C		旧調月保育所		
	D	区分4		区分2	
		d	c	b	a
		ハード面			

※赤字：現在閉鎖中（無償貸与中）の施設

4-2 学童保育施設

(1) 施設概要

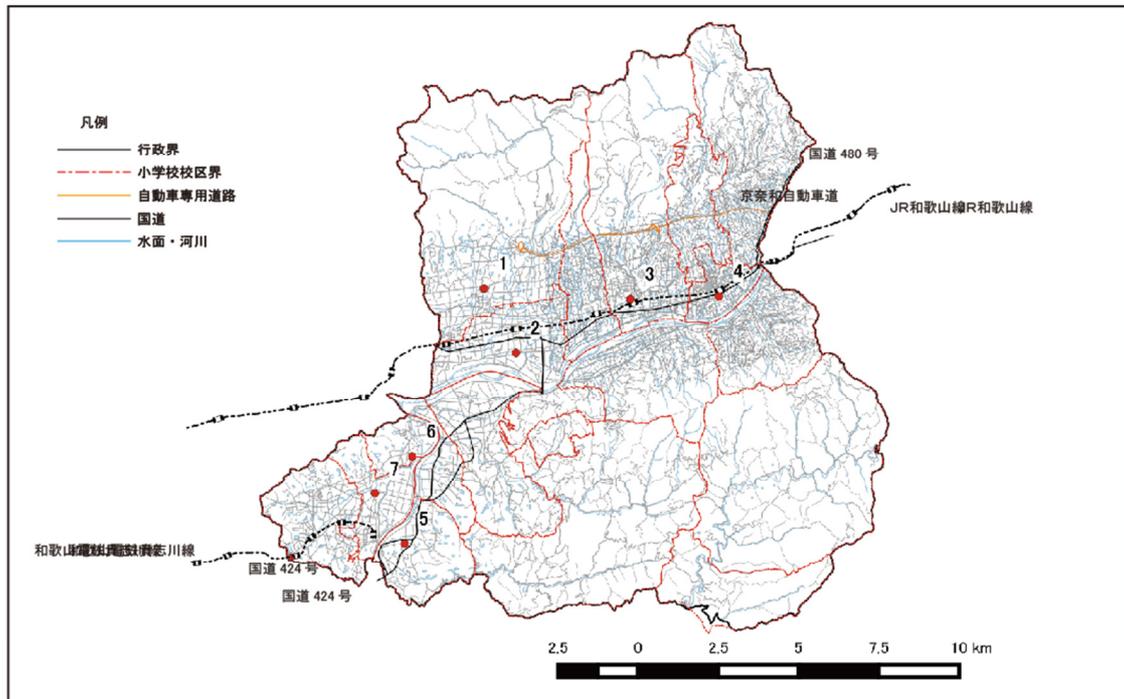
本市の学童保育施設は現在、地域別に打田地域に2箇所、粉河地域及び那賀地域にそれぞれ1箇所、桃山地域に2箇所、貴志川地域に4箇所で開催しており、そのうち学童保育専用施設として下表に示す7施設を有しています。

なお、平成27年度に「粉河アットホームクラブ」の移転及び現在他の施設を利用している「西貴志こどもくらぶ」の施設新設を予定しています。

図表 学童保育施設の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	学童保育「てのひら」	2004	104	学童保育	W	2004	不要	-		直営
	2	学童保育「太陽の子」	2004	86	学童保育	W	2004	不要	-		直営
粉河	3	学童保育「粉河アットホームクラブ」	1997	66	学童保育	LS	1997	不要	-		直営
那賀	4	学童保育「チャレンジ児童クラブ」	2003	104	(名手小学校を参照)						直営
貴志川	5	学童保育「ほたるっこ」	2006	63	(東貴志小学校を参照)						直営
	6	学童保育「丸栖っ子クラブ」	2009	87	学童保育	S	1985	不要	-		直営
	7	学童保育「こどもくらぶ」	2014	225	学童保育	S	2014	不要	-		直営

図表 学童保育施設の配置状況



《子育て支援施設》
《学童保育施設》

(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

学童保育「丸栖っ子クラブ」を除くと経過年数 20 年未満の新しい施設が多く、評価ランクは a 又は b となっています。

なお、学童保育「チャレンジ児童クラブ」は名手小学校内施設、学童保育「ほたるっこ」は東貴志小学校の余裕教室を利用しているため、建物性能は各小学校の評価結果となっています。

図表 学童保育施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過	評価点	劣化	評価点	耐震	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
				年数		状況		補強				
1	打田	学童保育「てのひら」	H16(2004)	11	15	0	20	不要	10	45	a	
2		学童保育「太陽の子」	H16(2004)	11	15	0	20	不要	10	45	a	
3	粉河	学童保育「粉河アットホームクラブ」	H9(1997)	18	15	0	20	不要	10	45	a	
4	那賀	学童保育「チャレンジ児童クラブ」	H23(2011)	5	20	2	15	不要	10	45	a	※1 ※2
5	貴志川	学童保育「ほたるっこ」	S52(1977)	38	5	5	5	不要	10	20	c	※1 ※3
6		学童保育「丸栖っ子クラブ」	S60(1985)	30	5	5	5	不要	10	20	c	
7		学童保育「こどもくらぶ」	H26(2014)	1	20	0	20	不要	10	50	a	
特記事項		※1 主施設の評価結果を記載。 ※2 「4 学童保育「チャレンジ児童クラブ」」は、名手小学校内施設。 ※3 「5 学童保育「ほたるっこくらぶ」」は東貴志川小学校余裕教室を利用。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の定員数に対する在籍児童数（稼働率）に基づく「施設の需要」、利用圏域の重複に基づく「施設の配置」、在籍児童1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 学童保育施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (20点満点)	定員数に対する 在籍児童数 (稼働率)	平成23年～25年における定員数に対する在籍児童数(稼働率)について、以下の4段階で評価。 20点:稼働率1以上が3時点 15点:稼働率1以上が2時点 10点:稼働率1以上が1時点 5点:稼働率1以上が無し
②-2 施設の配置		
施設の配置 (20点満点)	利用圏域内の重複施設数	既存の学童保育施設を中心に利用圏域内で重複している施設数に応じて4段階で評価 20点:重複無し 15点:重複施設が1施設 10点:重複施設が2施設 5点:重複施設が3施設以上
②-3 経費の多寡		
経費の多寡 (20点満点)	在籍児童1人当たりのコスト総額	在籍児童1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 20点:在籍児童1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 15点:在籍児童1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点:在籍児童1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点:在籍児童1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-4 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超15点以下 【D】15点以下	

《子育て支援施設》
 《学童保育施設》

施設の需要

現在の需要の評価として、定員数に対する在籍児童数の割合（稼働率）で評価すると、施設によって稼働率 100%以上で推移している施設と 100%に満たない施設とで明確に分かれています。

図表 学童保育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要			評価点	将来の需要	
			実績値(稼働率)				予測値	評価点
			H23	H24→25	H25			
1	打田	学童保育「てのひら」	92.5	90.0	88.0	5	-	-
2		学童保育「太陽の子」	96.7	90.0	90.0	5	-	-
3	粉河	学童保育「粉河アットホームクラブ」	100.0	86.7	100.0	15	-	-
4	那賀	学童保育「チャレンジ児童クラブ」	73.3	78.3	93.3	5	-	-
5	貴志川	学童保育「ほたるっこ」	100.0	116.7	106.7	20	-	-
6		学童保育「丸栖っ子クラブ」	96.0	80.0	84.0	5	-	-
7		学童保育「こどもくらぶ」	106.7	101.7	108.3	20	-	-

- : データ無し

施設の配置

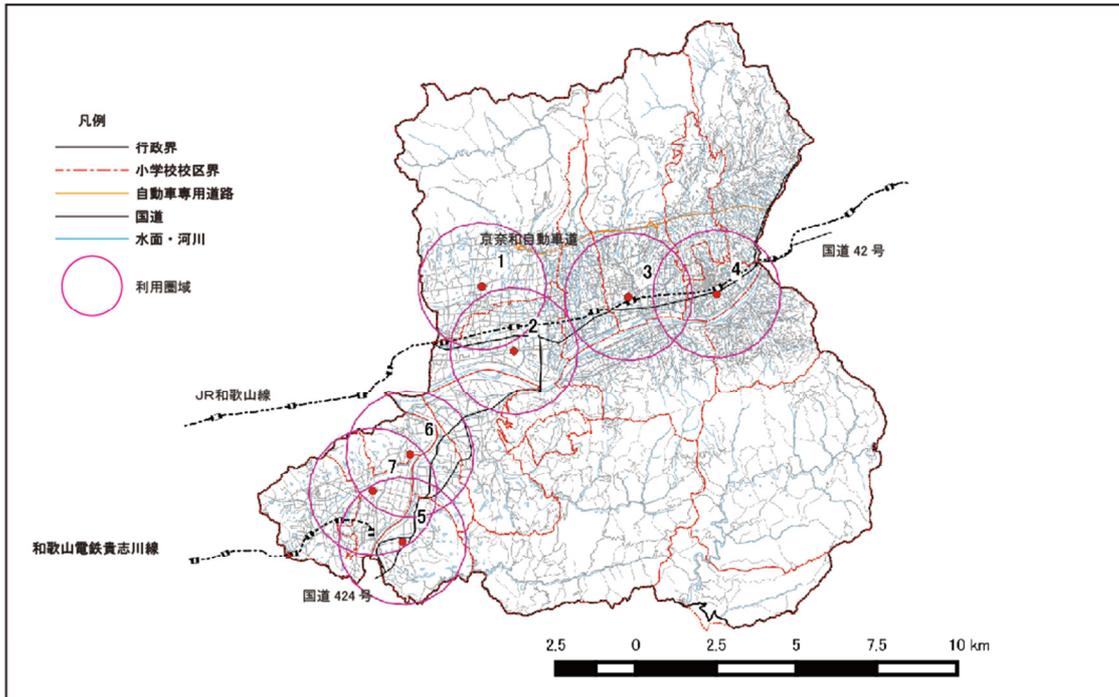
利用圏域を半径 2km とした場合の重複状況は、全ての施設で近隣施設と利用圏域の一部が重複しています。

また、貴志川地域の 3 施設については、それぞれの施設と利用圏域が重複しているため、評価点は 10 点となっています。

図表 学童保育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の配置）

地域	No.	施設名	重複施設	
			(No.)	評価点
打田	1	学童保育「てのひら」	2	15
	2	学童保育「太陽の子」	1	15
粉河	3	学童保育「粉河アットホームクラブ」	4	15
那賀	4	学童保育「チャレンジ児童クラブ」	3	15
貴志川	5	学童保育「ほたるっこ」	5、6	10
	6	学童保育「丸栖っ子クラブ」	6、7	10
	7	学童保育「こどもくらぶ」	5、7	10

図表 既存施設を中心に利用圏域を半径2kmとした場合の重複状況（学童保育施設）



経費の多寡

在籍児童一人あたりのコスト総額は240千円/人前後で、施設間の差はあまりありません。このため、評価点は10点と15点がほとんどで、学童保育「丸栖っ子クラブ」のみコストが高く評価点は5点と低くなっています。

図表 学童保育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	在籍者数 人	維持管理・運営コスト				在籍者一人あたりのコスト		
					維持管理費 万円	運営経費 万円	人件費 万円	総額 万円	総額 千円/人	平均額との差 %	評価点
1	打田	学童保育「てのひら」	104	42	8	1,080	-	1,087	259	9.2	10
2		学童保育「太陽の子」	86	28	0	593	-	593	214	▲ 9.5	15
3	粉河	学童保育「粉河アットホームクラブ」	66	29	0	632	-	632	221	▲ 7.0	15
4	那賀	学童保育「チャレンジ児童クラブ」	104	49	20	1,221	-	1,241	253	6.9	10
5	貴志川	学童保育「ほたるっこ」	63	32	22	677	-	699	216	▲ 8.7	15
6		学童保育「丸栖っ子クラブ」	87	22	8	578	-	587	271	14.2	5
7		学童保育「こどもくらぶ」	225	63	92	1,403	-	1,495	236	▲ 0.4	15
全体			736	265	150	6,185	0	6,335	237		

- : データ無し

《子育て支援施設》
《学童保育施設》

「施設機能（サービス面）」の評価結果

施設の配置と経費の多寡では施設間で差があまりないため、現在の需要が高い施設では B ランク、他の施設では C ランクが多くなっています。

図表 学童保育施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	学童保育「てのひら」	5	-	15	10	30	C
2		学童保育「太陽の子」	5	-	15	15	35	B
3	粉河	学童保育「粉河アットホームクラブ」	15	-	15	15	45	B
4	那賀	学童保育「チャレンジ児童クラブ」	5	-	15	10	30	C
5	貴志川	学童保育「ほたるっこ」	20	-	10	15	45	B
6		学童保育「丸栖っ子クラブ」	5	-	10	5	20	C
7		学童保育「こどもくらぶ」	20	-	10	15	45	B

- : データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能が a 又は b ランク、施設機能が A 又は B ランクの施設が多いため、区分 1 に分類されている施設が多くなっています。

学童保育「こどもくらぶ」のみ建物性能が c ランクのため区分 3 に分類され、学童保育「丸柘っ子クラブ」は施設機能が C ランクのため区分 2 に分類されます。

図表 学童保育施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	学童保育「てのひら」	a	C	区分2
2	打田	学童保育「太陽の子」	a	B	区分1
3	粉河	学童保育「粉河アットホームクラブ」	a	B	区分1
4	那賀	学童保育「チャレンジ児童クラブ」	a	C	区分2
5	貴志川	学童保育「ほたるっこ」	c	B	区分3
6	貴志川	学童保育「丸柘っ子クラブ」	c	C	区分4
7	貴志川	学童保育「こどもくらぶ」	c	B	区分3

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3	区分1		
	B	学童保育「ほたるっこ」 学童保育「こどもくらぶ」	学童保育「太陽の子」 学童保育「粉河アットホームクラブ」		
	C	学童保育「丸柘っ子クラブ」	学童保育「てのひら」 学童保育「チャレンジ児童クラブ」		
	D	区分4	区分2		
		d	c	b	a
		ハード面			

※ 斜体は他の施設内に設置されている施設

《子育て支援施設》
 《児童館》

4-3 児童館

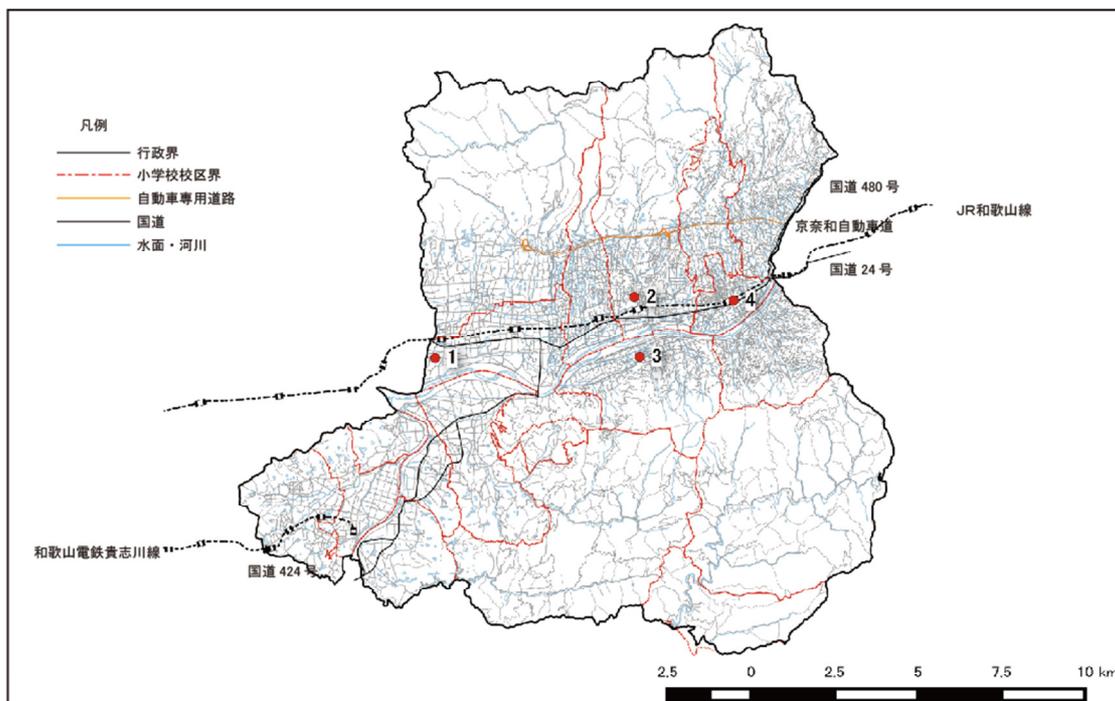
(1) 施設概要

本市は現在、児童館 4 施設を有しています。地域別では打田地域、那賀地域にそれぞれ 1 施設、粉河地域に 2 施設が立地しています。

図表 児童館の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	西井阪児童館	1976	409	児童館	RC	1976	未実施	未実施		直営
粉河	2	粉河児童館	1979	377	児童館	S	1979	未実施	未実施		直営
	3	竜門児童館	1985	493	児童館	S	1985	不要	-		直営
那賀	4	名手児童館	1986	185	児童館	RC	1986	不要	-		直営

図表 児童館の配置状況



(2) 施設評価

① 「建物性能（ハード面）」の評価

児童館の多くが 1970 年代～80 年代に建設されており、築 30 年以上経過した施設がほとんどで、新耐震基準（昭和 56 年 6 月）以前の建物も存在しますが、劣化については全施設で特に報告されていません。評価ランクは名手児童館のみ a ランクとなっています。

図表 児童館の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過	劣化	評価	耐震	評価	評価	評価	備考 (併設の有無)
				年数		点					
1	打田	西井阪児童館	S51(1976)	39	5	0	20	必要	0	25	c
2	粉河	粉河児童館	S54(1979)	36	5	0	20	必要	0	25	c
3	粉河	竜門児童館	S60(1985)	30	5	0	20	不要	10	35	b
4	那賀	名手児童館	S61(1986)	29	10	0	20	不要	10	40	a
特記事項											

②「施設機能（サービス面）」の評価

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 児童館の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	利用者数1人当たりのコスト総額	利用者数1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超 45点以下 【C】15点(60点×25%)超 15点以下 【D】15点以下	

施設の需要

利用者は増減をしていますが、粉河児童館、竜門児童館は減少傾向で推移していますので、評価点は10点と低くなっています。

なお、名手児童館は利用者の推移データがありませんので評価点は5点としました。

図表 児童館の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要			評価点	将来の需要	
			実績値				予測値	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	西井阪児童館	7.0	▲ 3.7	3.0	20	-	-
2	粉河	粉河児童館	0.0	▲ 0.6	▲ 0.6	10	-	-
3		竜門児童館	0.6	▲ 1.9	▲ 1.3	10	-	-
4	那賀	名手児童館	-	-	-	5	-	-

- : データ無し

経費の多寡

利用者一人あたりのコストは、304 円/人～1,018 円/人と施設によって開きがありますが、特に利用者数との相関は見られません。

評価点は、西井阪児童館と粉河児童館は 5 点、竜門児童館と名手児童館は 20 点と差が大きくなっています。

図表 児童館の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	利用者数 人	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持管理費	運営経費	人件費	総額	総額	平均額との差	評価点
					万円	万円	万円	万円	円/人	%	点
1	打田	西井阪児童館	409	1,421	57	15	73	145	1,018	73.5	5
2	粉河	粉河児童館	377	2,820	125	11	87	222	789	34.4	5
3		竜門児童館	493	3,659	59	17	65	141	385	▲ 34.4	30
4	那賀	名手児童館	185	1,752	47	6	0	53	304	▲ 48.2	30
全体			1,464	9,652	288	48	225	561	587		

「施設機能（サービス面）」の評価結果

施設機能は経費の多寡の得点が高い竜門児童館と名手児童館が B ランク、他は C ランクとなっています。

図表 児童館の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点合計	ランク
1	打田	西井阪児童館	20	-	-	5	25	C
2	粉河	粉河児童館	10	-	-	5	15	D
3		竜門児童館	10	-	-	30	40	B
4	那賀	名手児童館	5	-	-	30	35	B

- : データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能が a または b ランクの竜門児童館と名手児童館は区分 1 に、建物性能が c ランクの西井阪児童館と粉河児童館は区分 4 に分類されます。

図表 児童館の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	西井阪児童館	c	C	区分4
2	粉河	粉河児童館	c	D	区分4
3	粉河	竜門児童館	b	B	区分1
4	那賀	名手児童館	a	B	区分1

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3		区分1	
	B			竜門児童館	名手児童館
	C	区分4		区分2	
	D				
		d	c	b	a
		ハード面			

5 保健福祉・医療施設

5-1 保健施設

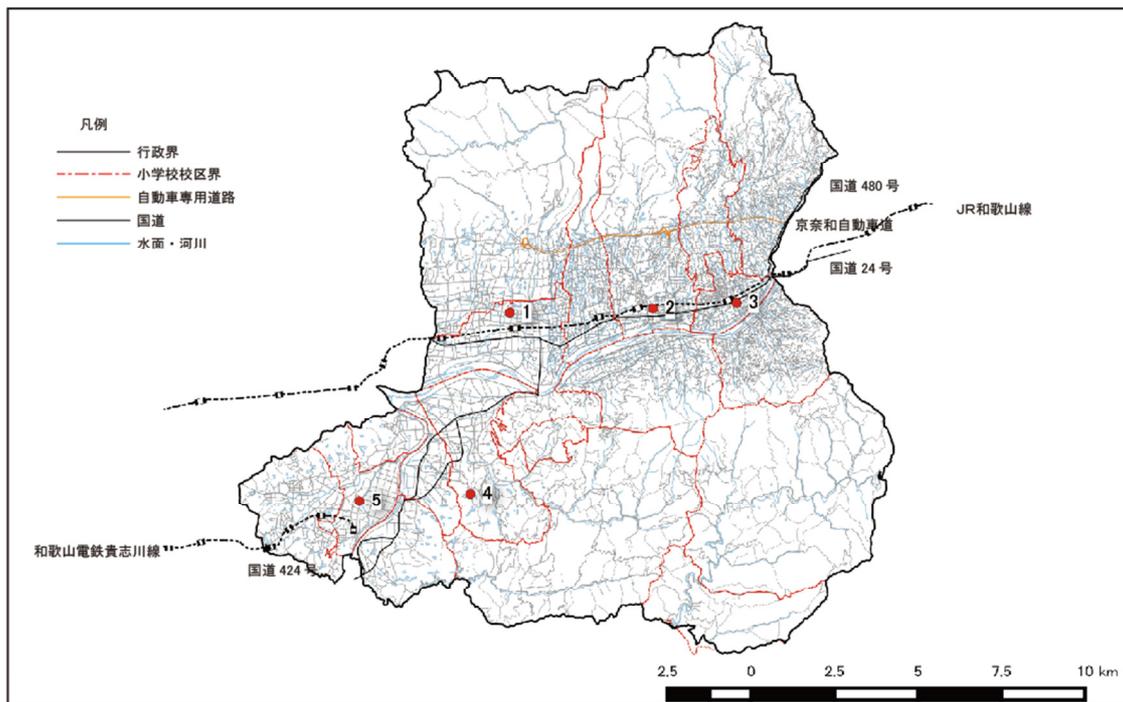
(1) 施設概要

本市は現在、保健福祉センターなどの保健施設を各地域にそれぞれ1施設、合計5施設有しています。

図表 保健施設の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	打田保健福祉センター (本庁舎南館内)	1998	2,552	(本庁舎(南館)を参照)						直営
粉河	2	粉河保健センター	1980	510	保健センター	RC	1979	未実施	未実施		直営
那賀	3	那賀保健福祉センター (那賀支所内)	1997	2,583	(那賀支所を参照)						直営
桃山	4	桃山保健福祉センター	1996	3,260	保健センター	RC	1996	不要	-		直営
貴志川	5	貴志川保健福祉センター (貴志川支所内)	2000	1,490	(貴志川支所を参照)						直営

図表 保健施設の配置状況



《保健福祉・医療施設》

《保健施設》

(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

保健施設は、1980～90年代にかけて開設されました。単独の施設として立地する粉河保健センター及び桃山保健福祉センターの他は、支所等内に併設して利用されています。

図表 保健施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過	評価点	劣化	評価点	耐震	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
				年数		状況		補強				
1	打田	打田保健福祉センター (本庁舎南館内)	H10(1998)	17	15	0	20	不要	10	45	a	※1
2	粉河	粉河保健センター	S54(1979)	36	5	0	20	必要	0	25	c	
3	那賀	那賀保健福祉センター (那賀支所内)	H9(1997)	18	15	0	20	不要	10	45	a	※1
4	桃山	桃山保健福祉センター	H8(1996)	19	15	3	10	不要	10	35	b	
5	貴志川	貴志川保健福祉センター (貴志川支所内)	H12(2000)	15	15	1	15	不要	10	40	a	※1
特記事項		※1 主施設の評価結果を記載。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。
これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 保健施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	利用者数1人当たりのコスト総額	利用者数1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超15点以下 【D】15点以下	

施設の需要

那賀保健福祉センター以外は需要が高く、評価点は20～30点となっています。

図表 保健施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の需要	
			実績値			評価点	予測値	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	打田保健福祉センター（本庁舎南館内）	2.2	▲ 1.2	1.0	20	-	-
2	粉河	粉河保健センター	1.3	94.9	49.3	30	-	-
3	那賀	那賀保健福祉センター（那賀支所内）	6.1	▲ 7.7	▲ 2.1	10	-	-
4	桃山	桃山保健福祉センター	2.1	21.7	19.5	30	-	-
5	貴志川	貴志川保健福祉センター（貴志川支所内）	3.2	▲ 1.8	1.3	20	-	-

- : データ無し

経費の多寡

施設によって利用者一人あたりのコストに大きな差があり、那賀保健福祉センターと桃山保健福祉センターは5点、残りは30点となっています。

図表 保健施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	利用者数 人	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持管理費 万円	運営経費 万円	人件費 万円	総額 万円	総額 円/人	平均額との差 %	評価点 点
1	打田	打田保健福祉センター（本庁舎南館内）	2,551.5	9,454	0	8	0	8	9	▲ 99.8	30
2	粉河	粉河保健センター	510.3	2,319	102	3	0	105	453	▲ 91.3	30
3	那賀	那賀保健福祉センター（那賀支所内）	2,583.1	792	791	278	0	1,069	13,509	159.6	5
4	桃山	桃山保健福祉センター	3,260.1	2,672	2,081	93	1,600	3,774	14,121	171.4	5
5	貴志川	貴志川保健福祉センター（貴志川支所内）	1,489.9	2,923	439	42	0	482	1,647	▲ 68.3	30
全体			10,395	18,160	3,413	424	1,600	5,438	5,203		

「施設機能（サービス面）」の評価結果

那賀保健福祉センターは現在の需要と経費の多寡ともに評価点が低くDランク、桃山保健福祉センターは経費の多寡が低いためBランク、他はAランクとなっています。

図表 保健施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点合計	ランク
1	打田	打田保健福祉センター（本庁舎南館内）	20	-	-	30	50	A
2	粉河	粉河保健センター	30	-	-	30	60	A
3	那賀	那賀保健福祉センター（那賀支所内）	10	-	-	5	15	D
4	桃山	桃山保健福祉センター	30	-	-	5	35	B
5	貴志川	貴志川保健福祉センター（貴志川支所内）	20	-	-	30	50	A

-：データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能は粉河保健センターのみcランクのため区分3に、全他の施設は、施設機能がCランクの那賀保健福祉センターのみ区分2に、他は区分1に分類されます。

図表 保健施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	打田保健福祉センター（本庁舎南館内）	a	A	区分1
2	粉河	粉河保健センター	c	A	区分3
3	那賀	那賀保健福祉センター（那賀支所内）	a	D	区分2
4	桃山	桃山保健福祉センター	b	B	区分1
5	貴志川	貴志川保健福祉センター（貴志川支所内）	a	A	区分1

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	粉河保健センター		打田保健福祉センター (本庁舎南館内) 貴志川保健福祉センター (貴志川支所内)	
	B	区分3		区分1 桃山保健福祉センター	
	C	区分4		区分2	
	D			那賀保健福祉センター (那賀支所内)	
		d	c	b	a
		ハード面			

※ 斜体は他の施設内に設置されている施設